

第2サイクルにおける高等専門学校機関別認証評価基準
—第1サイクルでの対象校並びに評価担当者へのアンケート及び
対象校への訪問インタビューにより得られた意見等の分析と
基準、観点等の見直しへの反映状況—

平成24年1月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

第2サイクルにおける高等専門学校機関別認証評価基準

—第1サイクルでの対象校並びに評価担当者へのアンケート及び 対象校への訪問インタビューにより得られた意見等の分析と 基準、観点等の見直しへの反映状況—

1. はじめに

平成16年度に開始された認証評価制度は全ての高等教育機関に7年以内に1度の評価を義務づけている。大学評価・学位授与機構は平成16年度に8校の高等専門学校の試行的評価を行い、その結果を基に認証評価基準等を確定し、翌年度文部科学大臣により高等専門学校の認証評価機関として認証された。平成17年度から直ちに高等専門学校の認証評価を開始し、平成22年度までに評価を受けることが必要な高等専門学校全60校が評価を受けた¹。この間の認証評価結果から見た高等専門学校の現況と認証評価の効果については、平成21年度時点で別にまとめられている（野澤ら(2010)）。

平成23年度からは、第1サイクルの認証評価基準等を見直し第2サイクルの高等専門学校認証評価を開始している。本稿では、新しいサイクルへ向けての認証評価基準等の見直しの状況を特に評価実施後毎年行っている評価を担当していただいた委員並びに評価を受けた対象校に対してアンケートによる検証結果との対応において整理した。アンケートにおいては、参考資料1として末尾に添付する評価基準、観点の適切性をはじめ評価の実施体制等にかかる項目に対して選択式に主として5段階、一部2段階で回答を求めた設問の他に、多くのアンケート項目において評価に対する意見、感想等を自由記述の形で記載を依頼している。また、評価の初年度（平成17年度）には受審した一部の対象校（4校）については、同校を訪問してインタビュー調査を実施し、直接、意見、感想等を聴取した。

注1 平成20年4月時点では、国立高等専門学校55校、公立高等専門学校3校、私立高等専門学校3校の合計61校が設置されていたが、平成21年10月に国立高等専門学校の8校が4校に統合されたため平成23年度現在では、国立高等専門学校は51校となっている。なお、公立のうちの1校は平成18年度に統合され新高等専門学校となったため第1サイクルの認証評価期間には完成年度を迎えていないため評価を受けていない。

このようにして得られた意見・感想等のうち主として基準、観点に係わる意見を、認証評価全体に関わるもの、各基準に対するものに大まかに分類し、末尾の参考資料2としてまとめた。なお、アンケートに寄せられた意見・感想は内容を歪めないように要約したものとしている。また、参考資料には、第2サイクルの認証評価の基準、観点等を見直す際にこれらの意見に対してどのように対応したかについても大まかに分類して示している。

評価を実施した対象校は、平成17年度と18年度は18校ずつ、平成19年度は20校、そして、平成20年度と22年度は2校ずつであった。そのため、平成20年度と22年度のアンケート結果は、その時評価を受けた対象校の状況に大きく依存することに留意して、経時的な変化を考察する際に考慮を加えている。また、それぞれの年度ごとの状況の分析は毎年度検証結果報告書（高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書、独立行政法人大学評価・学位授与機構）にまとめ機構のウェブサイトでも公表している。

なお、本稿は高等専門学校機関別認証評価の検証担当者がまとめたものである。

2. 第1サイクルの認証評価基準、観点等についての検証結果

高等専門学校認証評価基準は、平成16年度に作成され、平成16年度の試行的評価の結果を基に見直しが行われ第1サイクルの基準、観点として確定した（高等専門学校評価基準（機関別認証評価）付選択的評価事項 大学評価・学位授与機構(2010)）。平成18年度には、平成17年度に認証評価の一環として行っていた選択的評価基準を選択的評価事項として、認証評価とは別に機構が独自に行う第三者評価とする組み替えを行うとともに、一部文言等の加筆、修正を行ったが、基準1から11の認証評価基準については本質的な変更はなかった。

本章では、まず、参考資料1として示した、選択式に主として5段階、一部2段階で回答を求めたアンケートの結果の経年変化のうち、対象校並びに評価担当者の①評価基準及び観点について、表1、表2を再掲して、図1、図2には、そのデータの一部をグラフとして示した。これらの図で、平成20年度と22年度は対象校が2校のみであり、評価担当者も平成17年度と18年度と19年度の30人、40人、60人程度と比較し、10人程度と有意に少ないことから、割合のみで同じように示すことは必ずしも適当ではないが、その点には留意して考察することにして、グラフには表示している。

表1 対象校による各年度のアンケート結果における、それぞれの設問に対する各評価の数、その全体での割合及び回答対象校の合計数と評価の平均値

【①評価基準及び観点について】

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質を保証するために適切であった	H17	6	33%	11	61%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H18	2	11%	15	83%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H19	5	25%	14	70%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		15	25%	42	70%	3	5%	0	0%	0	0%	60	4.20
教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	H17	6	33%	9	50%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	6	30%	13	65%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		16	27%	36	60%	8	13%	0	0%	0	0%	60	4.13
教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	H17	6	33%	10	56%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	2	10%	11	55%	6	30%	1	5%	0	0%	20	3.70
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		12	20%	34	57%	13	22%	1	2%	0	0%	60	3.95
教育活動を中心に設定していることは適切であった	H17	8	44%	10	56%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.44
	H18	5	28%	13	72%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H19	6	30%	11	55%	2	10%	1	5%	0	0%	20	4.10
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		22	37%	35	58%	2	3%	1	2%	0	0%	60	4.30

【H17～18】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【H19～22】2: ある～1: ない

		5		4		3		2		1		合計	平均
自己評価しにくい評価基準又は観点があつた	H17	3	17%	4	22%	8	44%	1	6%	2	11%	18	3.28
	H18	1	6%	5	28%	8	44%	4	22%	0	0%	18	3.17
	H19							8	40%	12	60%	20	1.40
	H20							0	0%	2	100%	2	1.00
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							0	0%	2	100%	2	1.00
合計								8	33%	16	67%	24	1.33

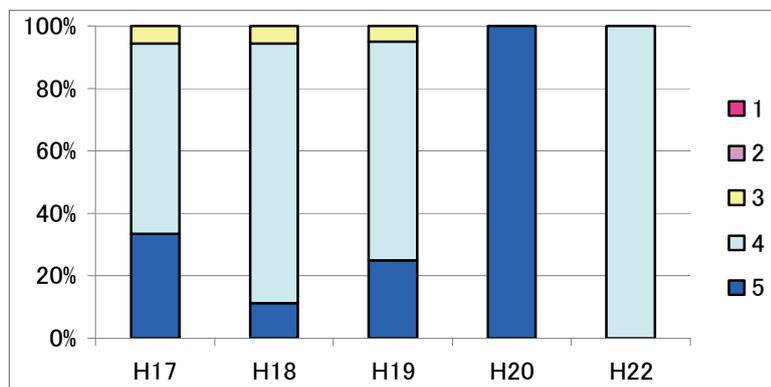
【H18から新設】2: ある～1: ない

		2		1		合計	平均
内容が重複する評価基準又は観点があつた	H17						
	H18						
	H19	5	28%	13	72%	18	1.28
	H20	3	15%	17	85%	20	1.15
	H21	1	50%	1	50%	2	1.50
	H22	-	-	-	-	-	-
合計	9	21%	33	79%	42	1.21	

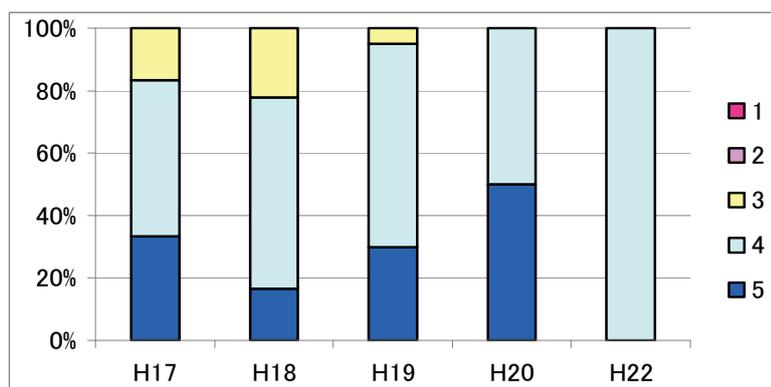
【対象校：①評価基準及び観点について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

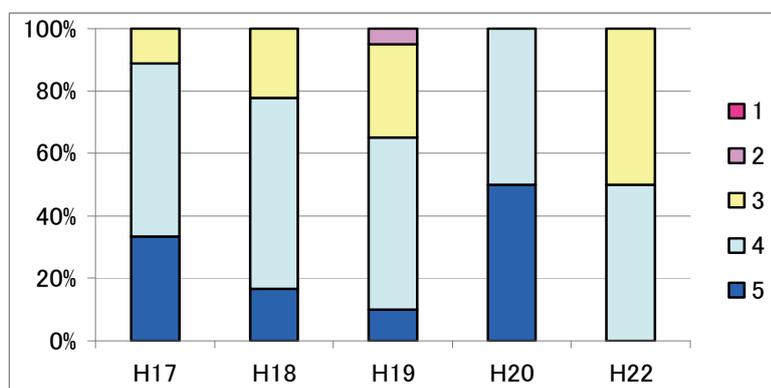
教育研究活動等の質を保証するために適切であった



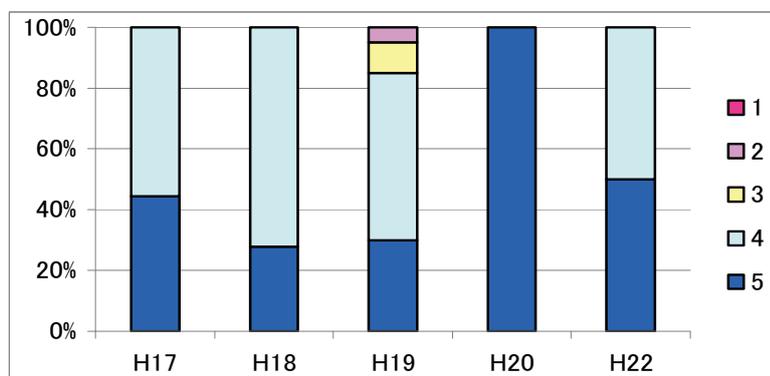
教育研究活動等の改善を促進するために適切であった



教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった

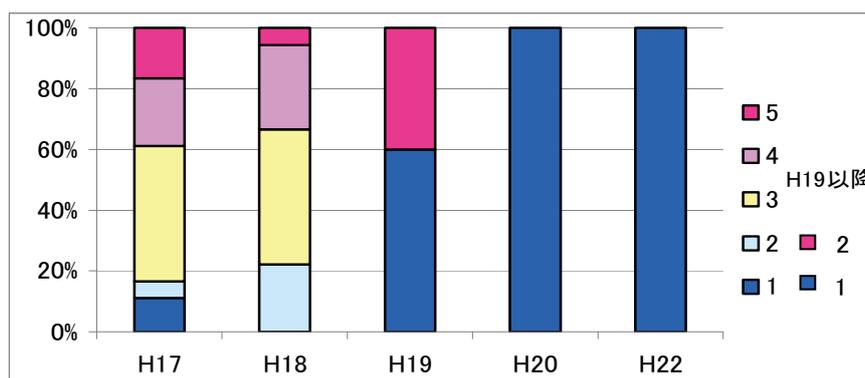


教育活動を中心に設定していることは適切であった



【H17～18】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない
 【H19～22】2: ある～1: ない

自己評価しにくい評価基準又は観点があつた(H19以降は2択)



2: ある～1: ない

内容が重複する評価基準又は観点があつた(H18から設問を設定)

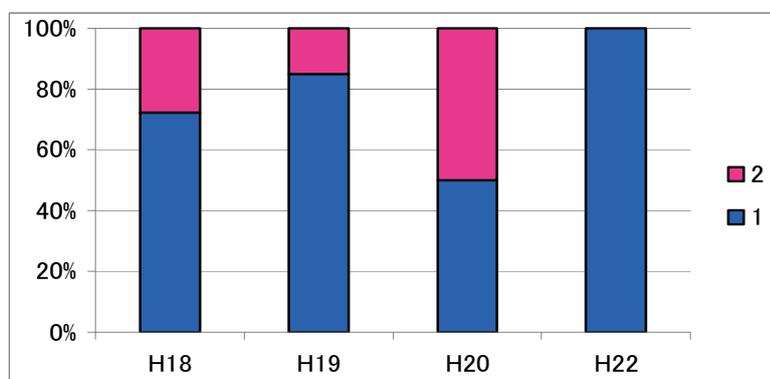


図1 対象校によるアンケート結果の各評価の割合の年度分布

表2 評価担当者による各年度のアンケート結果における、それぞれの設問に対する各評価の数、その全体での割合及び回答した評価者の合計数と評価の平均値

【①評価基準及び観点について】

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質を保証するために適切であった	H17	7	23%	19	63%	4	13%	0	0%	0	0%	30	4.10
	H18	8	19%	32	74%	3	7%	0	0%	0	0%	43	4.12
	H19	13	22%	42	71%	4	7%	0	0%	0	0%	59	4.15
	H20	5	50%	4	40%	1	10%	0	0%	0	0%	10	4.40
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	5	71%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.00
合計		34	23%	102	68%	13	9%	0	0%	0	0%	149	4.14
教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	H17	8	27%	19	63%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.17
	H18	12	28%	26	60%	5	12%	0	0%	0	0%	43	4.16
	H19	13	22%	41	69%	5	8%	0	0%	0	0%	59	4.14
	H20	3	30%	7	70%	0	0%	0	0%	0	0%	10	4.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	6	86%	1	14%	0	0%	0	0%	7	3.86
合計		36	24%	99	66%	14	9%	0	0%	0	0%	149	4.15
教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	H17	3	10%	21	70%	5	17%	1	3%	0	0%	30	3.87
	H18	9	21%	27	63%	6	14%	1	2%	0	0%	43	4.02
	H19	17	29%	35	59%	7	12%	0	0%	0	0%	59	4.17
	H20	3	30%	5	50%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.10
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	4	57%	3	43%	0	0%	0	0%	7	3.57
合計		32	21%	92	62%	23	15%	2	1%	0	0%	149	4.03
教育活動を中心に設定していることは適切であった	H17	15	50%	12	40%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.40
	H18	17	40%	23	53%	3	7%	0	0%	0	0%	43	4.33
	H19	28	47%	26	44%	3	5%	2	3%	0	0%	59	4.36
	H20	5	50%	5	50%	0	0%	0	0%	0	0%	10	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	29%	4	57%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.14
合計		67	45%	70	47%	10	7%	2	1%	0	0%	149	4.36

【H17～18】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【H19～22】2: ある～1: ない

		5		4		3		2		1		合計	平均	
評価しにくい評価基準又は観点があった	H17	5	17%	12	40%	8	27%	4	13%	1	3%	30	3.53	
	H18	1	2%	14	33%	14	33%	14	33%	0	0%	43	3.05	
	H19								24	41%	34	59%	58	1.41
	H20								4	40%	6	60%	10	1.40
	H21								-	-	-	-	-	-
	H22								4	57%	3	43%	7	1.57
合計									32	43%	43	57%	75	1.43

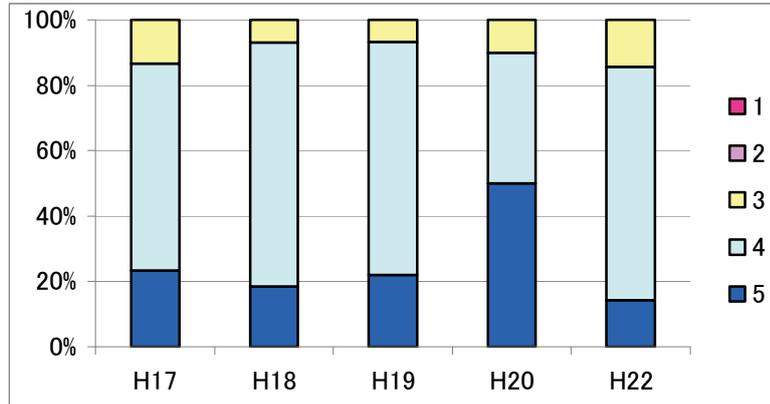
【H18から新設】2: ある～1: ない

		2		1		合計	平均
内容が重複する評価基準又は観点があった	H17						
	H18	8	20%	33	80%	41	1.20
	H19	7	13%	49	88%	56	1.13
	H20	2	20%	8	80%	10	1.20
	H21	-	-	-	-	-	-
	H22	4	57%	3	43%	7	1.57
合計		21	18%	93	82%	114	1.18

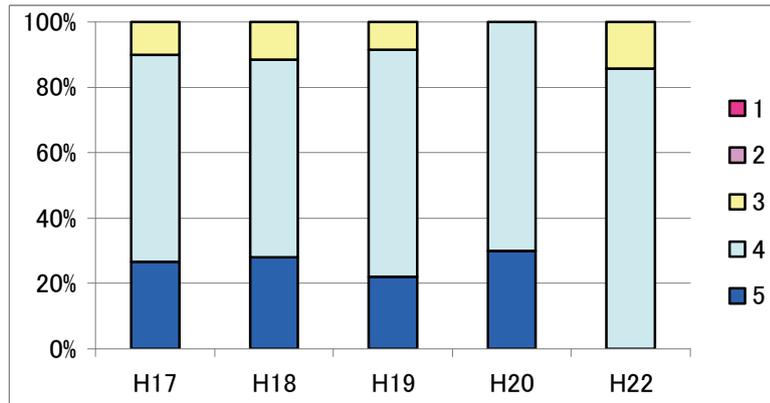
【評価担当者：①評価基準及び観点について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

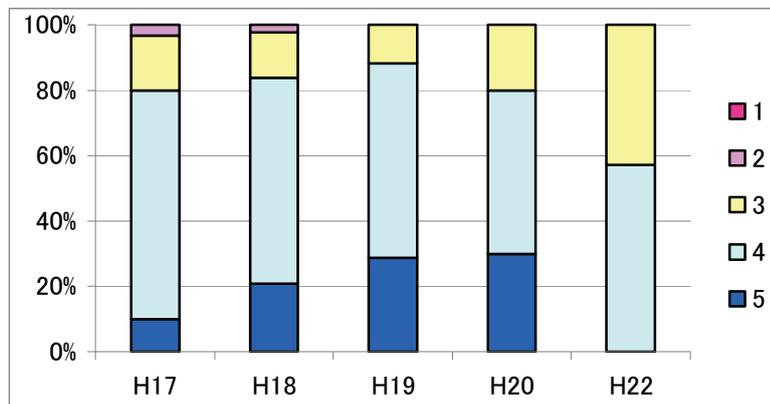
教育研究活動等の質を保証するために適切であった



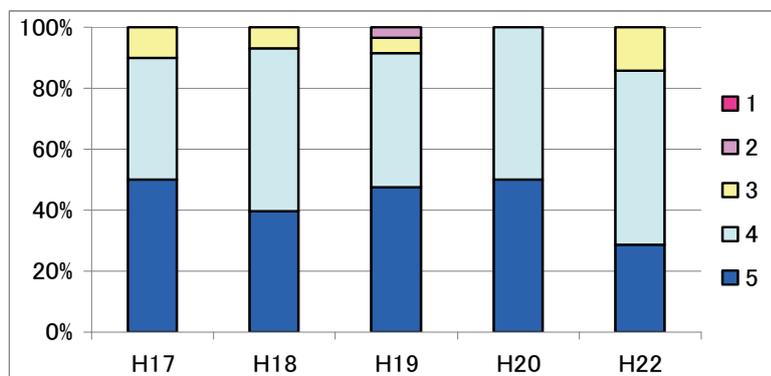
教育研究活動等の改善を促進するために適切であった



教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった

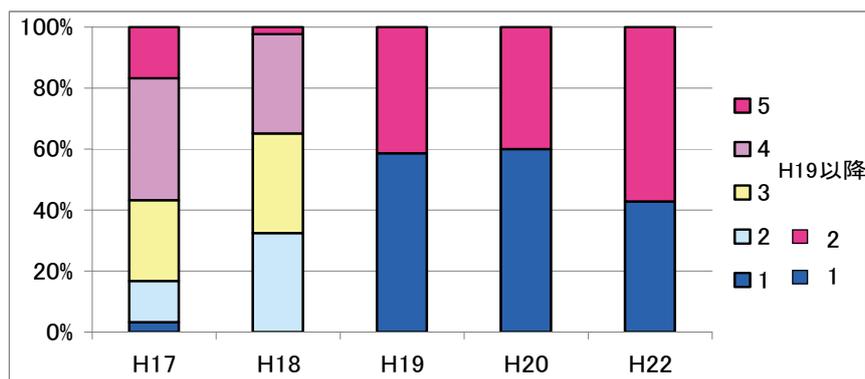


教育活動を中心に設定していることは適切であった



【H17～18】5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない
 【H19～22】2:ある～1:ない

評価しにくい評価基準又は観点があつた(H19以降は2択)



2:ある～1:ない

内容が重複する評価基準又は観点があつた(H18から設問を設定)

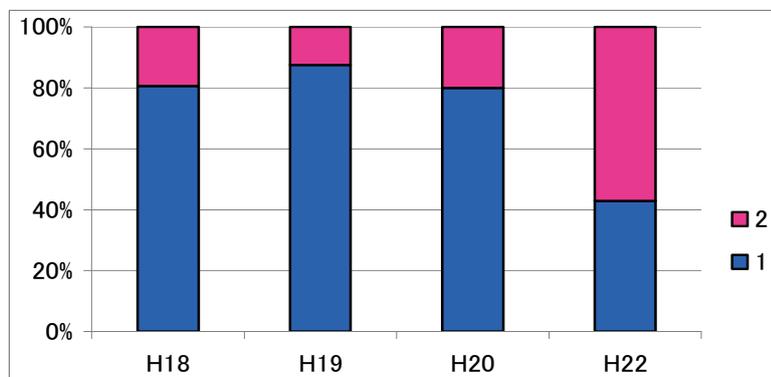


図2 評価担当者によるアンケート結果の各評価の割合の年度分布

これらの結果から、評価基準及び観点の構成や内容が認証評価の目的である「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」かについては、アンケート結果の表1と表2及びそれを図で示した図1と図2から、対象校及び評価担当者のほぼ9割以上から4以上で適切との回答を得ていることがわかる。また、「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」かについては、同様に、ほぼ8割以上から4以上で適切との回答を得ている。一方、残るもう一つの認証評価の目的である「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」かについては、評価担当者の8割以上から4以上の肯定的な回答を得ているが、対象校については4以上の肯定的な回答は年々減少し、平成19年度には65%にとどまっている。なお、ここでは、対象校並びに評価担当者が他の年度と比較して非常に少ない平成20年度と22年度の結果は除いて考察している。対象校において、「改善を促進するために適切であった」かについては、評価開始から3年度後に4以上の評価が高くなり、認証評価による改善効果とみることができる。一方、社会からの理解と支持については、年度とともにむしろ減少する傾向が見られた（平成20年度と22年度を除く）。この点については、認証評価結果とは直接関わりのない、マスコミの取り上げ方の減少傾向とも一致していることに注目したい。

また、「基準、観点を教育活動を中心に設定していること」については、第1サイクルを通じて、ほぼ支持されている。「評価しにくい評価基準又は観点があった」かについては、平成17年度と18年度と19年度には4割弱の対象校があったと回答している（平成20年度と22年度を除く）。しかし、評価担当者では、第1サイクルを通して5割前後があったと回答している。この点に関しては、説明会、研修会で改善を図ることが望まれる。

「内容が重複する基準又は観点があった」かについては、全体を通してあるという回答が2割以上見られた（平成20年度と22年度の対象校を除く）。教育においては、多くのことが多面的に関連を持っているのであるから、内容が重複する観点があることは避けられないことで、この点に関しては評価方法を工夫することにより対応すべきと判断して実施している。すなわち、重複が考えられる観点については、対象校がその分析を提出した自己評価書において、どちらの観点で記述しているかは問題とせずに対象校の実態を観る評価を行うことにより対応している。

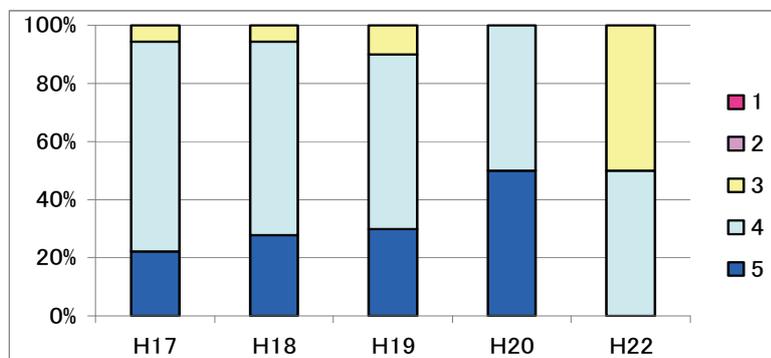
なお本稿では、第2サイクルに向けて基準、観点の見直しの状況を中心に議論するため、評価の方法及び内容、評価作業量・スケジュール、説明会、研修会、評価結果等については、末尾に経年変化の資料を添付し、特に顕著なものについてだけ本稿中で付言している。

図3の結果から見られるように、対象校において、アンケートの「②評価方法及び内容について」では、「適切に自己評価を行うことができた」という設問の肯定的な回答が年度を通して高い。また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」とする回答は年度とともに減少している（平成20年度と22年度を除く）。この傾向は、年度を経るとともに対象校の評価に対する理解が深まったものと思われる。

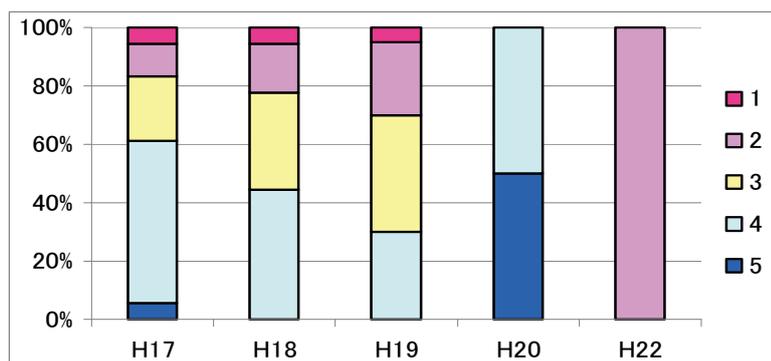
【対象校：②評価の方法及び内容について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた



自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた



【H17～19】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない
 【H20～22】2: 迷った～1: 迷っていない

自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った(H20以降は2択)

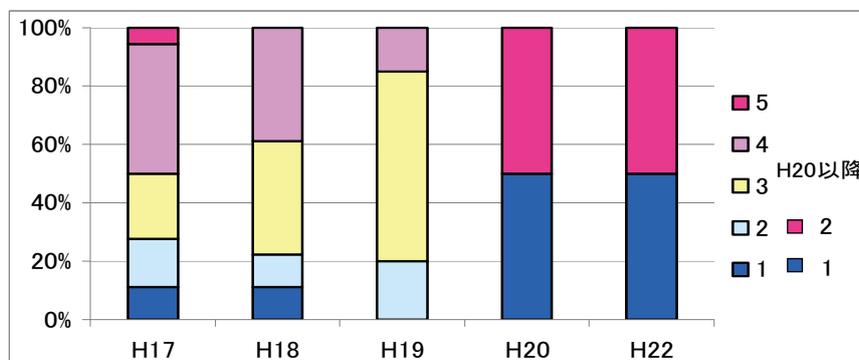


図3 対象校によるアンケート結果の各評価割合の年度分布

一方で、「自己評価の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた」という設問では、できたとする回答が顕著に減少している（平成20年度と22年度を除く）。

書面調査による分析状況、訪問調査時の確認事項、訪問調査の実施内容は問題がなくほぼ十分なレベルであるという結果であった。

アンケート「③評価の作業量、作業に費やした期間について」は、作業量は大きく、作業に費やした期間は長いとする回答が多くなっている。また、これらに費やした労力が、質の保証、改善の進行という目的に見合っているかについては、平成17年度と18年度は8割を超える対象校が肯定的な回答をしているのに対して、平成19年度はそれが6割強となっていることがやや懸念されるが、おそらくこの結果は評価を受けた対象校の事情に依存する要因ではないかと思われる。

アンケート「⑥評価を行ったことによる効果・影響」において、自己評価を行ったことによる効果並びに評価結果を受けたことによる効果・影響では、学校としては、教育研究活動等の全般的な把握、今後の課題の把握、改善には有効であったが、教職員への組織的運営の重要性の浸透、教育研究活動に取り組む意識の向上、個性的な取組の促進までには必ずしもつながっていない様子が見られ、この傾向は年度が進んでもあまり改善は見られなかった。

選択的評価事項に対しては、ほぼ肯定的な回答と判断され、また、経時的な変化もあまり見られなかった。

次に、評価担当者においては、「②評価の方法及び内容・結果について」及び「③研修」においては、年度とともに肯定的な回答が増加傾向にあり、その他のアンケート項目についても総じて肯定的な回答が多いと判断できる。また、「④評価の作業量、スケジュール等」については、自己評価書の書面調査の作業量が大きいと受け止められてはいるものの、評価作業に費やした労力は、教育研究活動の質保証、改善を進める目的に見合うものであるという肯定的な回答が多く、この点に関しては、あまり著しい経年変化もなくほぼ8割に近い肯定的な評価を得ている。ただし、社会からの理解と支持に関しては、ここでも7割程度とやや低くなっている。そして、「⑥評価全般」では総じて機構の認証評価を経験できて良かったとする回答は平成18年度と19年度のごく一部の回答を除きほぼ100%となっている。

選択的評価事項については、基本的な観点の構成や内容はほぼ8割以上が4以上の評価となっている。そして、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」に対する評価は肯定的な回答が平成17年度は5割程度であったが平成18年度は7割程度となっている。

評価担当者による書面調査の実施方法について、第1サイクルを通して同じとしてきたが、検証結果で作業負担が大きいという結果を受けて、第2サイクルでは大きく見直しを行った。具体的には、評価担当者を主担当と副担当に分け、それぞれ2校ずつ受けもつが、書面調査結果をはじめから記載する対象校は1校のみとし、残る1校については、主担当案に対するコメントを行う方式とした。また、訪問調査の期間については、第1サイクル

の2泊3日から第2サイクルでは1泊2日とする短縮を行ったが、実施項目はそのままとしているため、作業の負担は減少したわけではなく、むしろ、評価者には過度なスケジュールを強いることになるのではと危惧される。

これらの検証結果をまとめると、評価基準並びに基本的な観点は概ね適切と評価されており、認証評価の第2サイクルに向けても基準の構成においては本質的な修正の必要はないと考える。ただし、自由記述における意見などを参考にして、基準並びに観点の意味するところがより明確になるよう改良していくことは必要である。

なお、社会から理解され、支持が得られたかについては対象校からの肯定的な評価が6割にとどまったが、このことに関しては基準、観点の修正とは異なる対応が要求されると考えられた。評価委員からも、基準、観点の内容の改善よりも、評価結果の対象校への報告と講評を、対象校は勿論全高等専門学校へ、また、関心のある全ての人たちの前で公開シンポジウムのような形で行うことなど広報活動の充実がより効果的ではないかとの意見をアンケートへの自由記述意見等として受けており、その方向の改善が本質的な解決となると考えている。

3. 自由記述意見等の考察とその認証評価基準への反映

各年度の認証評価の検証においては、2. で考察した選択式のアンケートとは別に、多くのアンケート項目において関連する自由記述による意見並びに全体を通しての意見を自由記述の形で記載を依頼している。それらの意見のまとめは参考資料2として示している。ここでは、その自由記述意見等を検討して、第2サイクルの基準等の改訂に活用した状況を述べる。

なお、基準・観点の改訂においては、認証評価第1サイクルの期間になされた法令の改正への対応、並びに中央教育審議会の数々の答申の趣旨を反映することが必須であるため、検証結果の意見の反映とともに、これらを考慮した改訂となっている。

3. 1 基準1 高等専門学校の目的

第2サイクル用に改訂された新たな基準1とその基本的な観点は以下のようにになっている。ここで、下線は第1サイクルから変更された部分を示している。

基準1 高等専門学校の目的

1-1 高等専門学校の目的（高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており，その内容が，学校教育法に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであること。また，学科及び専攻科ごとの目的が明確に定められていること。

1-2 目的が、学校の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。

基本的な観点

1-1-① 高等専門学校が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

1-2-① 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

1-2-② 目的が、社会に広く公表されているか。

参考資料2にまとめた評価対象校へのアンケートの自由記述において、基準1に関しては特に意見は見られなかったが、評価担当者へのアンケートでは、「認証評価の目的が、使命、基本方針、基本的な成果とあまりにも問う内容が漠然としている」という意見、「旧観点1-1-②の「目的が学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。」は当然過ぎて高等専門学校に問う意味があるのか」という意見、また、「周知状況に関する評価の方法が不明確である」という意見などがあつた。これらの意見のなかで、評価方法については、今後、説明会、研修会等で理解を深めることとし、問う内容が漠然としているという意見に対しては、それぞれの高専での目的の記載方法が多様なことから、名称にはこだわらず内容を求めていること、そして、特に、基本的な成果としての達成目標（到達目標）については、達成状況が検証可能な具体的な目標であることを求めていることから、特に問題とは考えていない。

このような基準1に関するアンケートの意見をもとに、結論的に、第2サイクルの基準並びに基本的な観点については、基本的に問う内容は変えずに、旧観点1-1-①の「目的が明確か」と1-1-②の「一般的な目的からはずれたものでないか」を1-1-①として一つにまとめ、後者については、目的の中で記述してもらえようとした。このことは、大部分の高等専門学校の使命ないしは、目的に、学校教育法第115条がそのままの文言、すなわち、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」が用いられ、それに基づいて、基本方針、達成目標が作成されていることから妥当と考えられる。

また、平成20年4月からの高等専門学校設置基準の改正により、「高等専門学校は、学科ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育上の目的を学則等に定め、公表するものとする」と規定されたことに鑑み、基準1と趣旨にこのことを追加するとともに、基本的な観点1-1-①に「また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。」を追加した。

さらに、平成20年12月に報告された中央教育審議会答申「高等専門学校教育の充実について—ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して—」（中央教

育審議会(2008)(1)において、学校の個性・特色に応じた養成する人物像を明確にした上で教育の充実を図っていくことが重要であるという指摘がなされていること（p 12）、そして、末尾の参考資料2に示した全体に関連した意見、感想等の中で、「このような評価で個性の伸長がはかれるかは疑問である」とか、「あまりにも機構の基準による自己評価に縛られると個性がなくなる」などという意見も踏まえ、基本的な観点1-1-①の「明確に定められているか」の前に「それぞれの学校の個性や特色に応じて」を挿入することとした。これは、機構の認証評価においては、それぞれの学校の目的に照らして評価する方針とし、個性の伸長にはまずもってこの目的が個性や特徴を反映していることが前提であることからである。また、趣旨の最後の段落における「地域社会への貢献」は、選択的評価事項Bと重複することから、「地域社会との連携」とし、加えて、「他の高等専門学校や高等教育機関との連携」も追記することとなった。

3. 2 基準2 教育組織（実施体制）

第2サイクル用に改訂された新たな基準2とその基本的な観点を以下に示す。

基準2 教育組織（実施体制）

2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成（学科，専攻科及びその他の組織）が，教育の目的に照らして適切なものであること。

2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され，機能していること。

基本的な観点

2-1-① 学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

2-1-② 専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

2-1-③ 全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

2-2-① 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

2-2-② 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

2-2-③ 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

基準2に関わる自由記述の意見では、「基本的な観点2-1-①、②、③は当然すぎてどのように記述すればよいのか迷った」という意見、また、「学科等は、既に文部科学省により設置の際、認可されているのに、また評価する必要があるのか」という意見、「2-2-②の意味がわかりづらい」、「2-2-③の支援体制の意味が広すぎてわかりづらい」、また、「体制が機能しているかという表現はわかりにくい」などの意見があった。

これまでに実施した認証評価の結果から、基準2の内容については、既に多くの高専が

一定の水準にあることは理解されるが（野澤ら(2010)）、認証評価が、設置認可後の事後評価の意味をもつことから（中央教育審議会（2008）(2)）、学科、専攻科が教育の目的を達成するために適切であることを評価する基準及び基本的な観点は必須なものでこれらを削除することはその妥当性を欠くことになる。このことから、観点はそのまま残し、基本的な観点2-2-①、②については、問う内容をより明確なものとするために、基準を説明する趣旨をより明確に記述することとし、文章を追加し、修正した（大学評価・学位授与機構(2008)）。具体的には前述の平成20年12月の中央教育審議会答申（中央教育審議会(2008)(1)）において、社会経済環境の変化に対応した高等専門学校の今後のあり方を受けた高等専門学校教育充実の具体的方策として、学科のあり方の見直しについては、急速に進展する科学技術の高度化の動向や地域のニーズを踏まえ（時代や地域の要請に即応し）（p25）、既存の学科の再編を含め、絶えず検討がなされていく必要があること、そして、専攻科についても学生のニーズ、企業のニーズに応じて整備・充実を図っていくことが適当であるという指摘があることを踏まえ、本基準の趣旨に「科学技術の動向や社会のニーズ、また、教育資源等を踏まえ、その学校の教育の目的に基づいた」を追加し、学科、専攻科の構成については、常に時代の要請するものにふさわしいものとする努力を求めるのが適当とした。さらに、2-2-①については、重複している部分を削除するとともに、観点で問うている意味が明確になるように文言を修正した。

3. 3 基準3 教員及び教育支援者等

第2サイクル用に改訂された新たな基準3とその基本的な観点を以下に示す。

基準3 教員及び教育支援者等

3-1 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

3-2 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われ、その結果を教員組織の見直し等に反映させていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、適切な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

3-3 教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置されていること。

基本的な観点

3-1-① 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

3-1-② 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

3-1-③ 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

3-1-④ 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

- 3-2-① 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。
- 3-2-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。
- 3-3-① 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

基準3に係るアンケートの自由記述の意見等においては、「旧観点3-1-①から③、3-2-①と②と3-3-①は自己評価がしにくい」という意見、「基準3の教育活動の評価は基準9と重複する」という意見、「基準3-2-②は、現行の基準、観点の構成の下では、教員の採用・昇格に限ったものとなる」などの意見があった。

基準3は教員配置が適切であるかを評価する基準であり、ここでの学校による教員の教育活動についての評価は、教員配置が適切かを判断するための評価である。そして、もし、その評価の結果から問題ありとされた場合には、教員組織の見直しなどに反映させるものである。一方、基準9の評価はもっぱら教育の質の向上と改善を目指す取組に反映させるための評価である。両方の評価では重なる部分も多いが基準3の方が広範囲の総合的な評価となると考えられる。そこで、基準3での評価が、教育組織を適切に編成し活性化する評価となっているかを問うていることを明確にし、基準9での教育の質の向上と改善に資する評価との違いをわかりやすくするために、基本的な観点3-2-①は、そのことを明示的に記述し、「全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか」とした。

さらに、認証評価においては基準の内容を評価する視点が基本的な観点であるとしていくことから、旧基準3-2のもとでの旧観点3-2-①は、教員の採用、昇格に限ったものとなるという指摘は当を得たものである。そこで、ここでの評価が教員の採用・昇格に限らず全教員に対するものであることが明確となるよう、基準3-2にも「全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われ、その結果を教員組織の見直し等に反映させていること。」という文章を加えることとした。

なお、本基準並びに以下の基準の基本的な観点等において、括弧内に、あるいは、括弧を用いずに、具体的な内容を例示として示してきた。しかし、第1サイクルの評価において例示を入れることが、対象校に例示に列挙された事項のみを評価させ、対象校の個性的な自己評価の妨げになっていることが見られたことから、第2サイクルの基準、観点からは、これらの例示は全て削除した。なお、これらの例示は別に作成し、対象校にも配布している「高等専門学校評価基準及び選択的評価事項の分析に当たっての留意点等について」という冊子に移し、そこには、これらがあくまでも例示であり、これに拘束されることな

く、それぞれの学校の目的に応じて適切な事項について自己評価を行うことを求めることとした。

3. 4 基準4 学生の受入

第2サイクル用に改訂された新たな基準4とその基本的な観点を以下に示す。

基準4 学生の受入

4-1 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されていること。

4-2 入学者の選抜が、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。

4-3 実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

基本的な観点

4-1-① 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

4-2-① 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

4-2-② 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

4-3-① 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

基準4に関わる自由記述の意見には、「アドミッション・ポリシーは大学を意識しすぎており、高専においては、中学卒業生を対象にすることから、もっと生徒にわかりやすい簡単なもので良く、むしろ、入学後の、転学科、編入学等のケアの方が大事である」という意見、「基本的な観点4-2-①、②は国立高専の場合入学試験問題が全国共通であることから、実施が困難で、現実とギャップがあり、自己評価しにくかった」という意見が多く寄せられている。

これらの意見のうち前者は基準や観点の問題ではなく、対象校に対する注文である。また後者については、すべての高等専門学校を対象とする認証評価では、国立、公立、私立を区別した対応はすべきではなく、このような状況のもとでもいろいろ工夫して入学者受入方針に沿った選抜試験の実施を行いその結果の検証を行っている国立高専が多く見られたことから、現状の基準、観点は本質的に適切と判断し、基準、趣旨並びに基本的な観点

の文言を一部、修正、補足することに止めた。また、観点における例示は削除した。

3. 5 基準5 教育内容及び方法

第2サイクル用に改訂された新たな基準5とその基本的な観点を以下に示す。

基準5 教育内容及び方法

(準学士課程)

5-1 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。

5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5-3 豊かな人間性の涵養に関する取組が適切に行われていること。

5-4 成績評価や単位認定、進級・卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

(専攻科課程)

5-5 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準が適切であること。

5-6 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5-7 教養教育や研究指導が教育の目的に照らして適切に行われていること。

5-8 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

基本的な観点

(準学士課程)

5-1-① 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

5-1-② 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

5-2-① 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

5-2-② 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

5-2-③ 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

5-3-① 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

5-4-① 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(専攻科課程)

5-5-① 教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

5-5-② 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

5-5-③ 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

5-6-① 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

5-6-② 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

5-6-③ 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

5-7-① 教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

5-8-① 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

基準5に関わる自由記述の意見には、「安全教育、環境教育を含めるべき」という意見が多数あった。また、「教育の目的に照らして、その達成のために適切かを問うことについては、評価が自己評価の書き方に依存してしまいがちで、対象校に評価書の書き方のスキルに走らせる恐れがあるので、評価後、実態として改善に向けての努力を促せるような工夫が必要である」という意見、「ごく一部でも対応していれば良いとするのではなく、学校全体としての実態を評価できなければ、評価のための評価になってしまう」という意見、「内容と方法を明確に区別できないため、観点間の記述に重複がでる」という意見がある。さらに、基準5では、「準学士課程と専攻科課程を分けない方が良い」という意見と、「しっかり別の番号立てにして分けるようにすべき」という両方の意見があった。そして、「基本的な観点5-1-①の教育課程の体系性の評価は、自己評価書の文章表現に依存する」という意見、5-1-②「学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等を教育課程の編成において配慮しているか」が評価しにくい、「5-2-①、5-6-①の「バランス」が評価しにくい」、「5-4-①と②の「人間の素養の涵養」は一つにまとめた方が

良い」、また、「人間の素養と言う言葉は問題」、「5-2-③、5-6-②は同じ観点に、創造性を育む工夫とインターンシップの活用の二つの視点がある」などの意見があった。

これらの意見から、基準5-2、5-6、趣旨、そして、観点5-2-①、5-6-①で、安全教育、環境教育についても分析を求めることも考えられるが、安全教育、環境教育といっても幅が広く、また、工学、倫理、技術等その他いろいろ重要な教育が考えられる中で、この二つだけを個別に取り上げるのは問題があることから、基準5ではなく、例えば基準8の適切などところで具体的に考慮することとした。また、基準5でも、全体的に例示の文言は外し、5-1-②、5-5-③では観点的意味がより明確になるように文章を組み直し、5-2-②では適切なシラバスの内容を補充し、5-2-③、5-6-②では、問う内容を二つに区別し、さらに、学校全体としての実態を評価していることを示すため、全ての学科、専攻について分析を求めていることを明示することにした。そして、5-4-①と②は一つの観点的で、特別活動の実施と課外活動等による人間の素養の涵養について問うよう修正した。この際、「一般教育の充実」が人間の素養の涵養に重要であることに配慮し、その文言を追加し、また、生活指導面という文言は重複するので削除した。そして、「人間の素養」は「豊かな人間性」に置き換えた。

3. 6 基準6 教育の成果

第2サイクル用に改訂された新たな基準6とその基本的な観点的を以下に示す。

基準6 教育の成果

6-1 教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。

基本的な観点的

6-1-① 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

6-1-② 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

6-1-③ 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

6-1-④ 学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

6-1-⑤ 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組

を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

基準6に関わる自由記述意見として、「基本的な観点6-1-①、②、④は自己評価しにくかった」という意見はあったが、本質的な意見は無かったことから、基準6についてはあまり修正の必要は無く、基本的な観点6-1-②の文章中の例示を削除し、代わりに「学校としてその達成状況を評価した結果から判断して」と変更し、分析する内容が例示に縛られないよう修正した。また、教育の成果として、長い視点に立った成果も重要であることから、観点6-1-⑤において、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力ばかりではなく、「卒業（修了）後の成果等」についても意見を聴取しているかどうかを追加して問うことにした。

3. 7 基準7 学生支援等

第2サイクル用に改訂された新たな基準7とその基本的な観点を以下に示す。

基準7 学生支援等

7-1 学習を進める上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制が整備され，機能していること。また，学生の課外活動に対する支援体制等が整備され，機能していること。

7-2 学生の生活や経済面並びに就職等に関する相談・助言，支援体制が整備され，機能していること。

基本的な観点

7-1-① 学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

7-1-② 自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

7-1-③ 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

7-1-④ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。
また，必要に応じて学習支援が行われているか。

7-1-⑤ 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

7-2-① 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

7-2-② 特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

7-2-③ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

7-2-④ 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

基準7に関わる自由記述の意見からは、「基準7では、安全環境を含めた適切性を問うべきである」という意見、「基準7と基準8とは、重複があり、自主学习スペース、バリアフリー、学生寮は基準8に入れよ」などという意見があった。後者の意見に関しては、これらは学生支援としての見方と施設・設備としての見方があることから、ある程度の重複は避けられないと考えている。

安全面に関しては、基準5での指摘もあったが、これらについては一括して基準8に追加することにして、基準7では、7-1-⑤に、責任体制についての分析の追加すること、さらに、一部文言の修正（「支援を行うことが必要と考えられる」を「支援が必要と考えられる」に、「者」を「学生」に、そして、「クラブ活動や学生会等の」を「部活動、サークル活動、自治会活動等の」に）を行った。また、括弧内に示されている例示は全て削除し、さらに、旧観点7-1-③と④は、内容が重複する自己評価が多かったことから、7-1-③として一つの観点に統合した。

3. 8 基準8 施設・設備

第2サイクル用に改訂された新たな基準8とその基本的な観点を以下に示す。

基準8 施設・設備

8-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されていること。

8-2 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

基本的な観点

8-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

8-1-② 教育内容、方法や学生のニーズを満たすI C T環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

8-2-① 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

基準8に関わる自由記述の意見として、「安全面、環境面を聞く観点があって良い」と言う意見、先にもあった基準7との重複についての意見があった。

基準8では、これまで、基準5並びに基準7でも意見のあった「安全管理」に関する分析を加えるとともに、環境に関する配慮を追加することにした。また、本基準においても、例示は外し、基準8-2及び観点8-2-①の「整備」を、本来の趣旨の「収集、整理」とする文言の修正、そして、観点8-1-②においては、時代の要請を考慮し、単に「情報ネットワーク」についてだけ問うのではなく、「ICT環境」として拡大して問うことにした。

3. 9 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

第2サイクル用に改訂された新たな基準9とその基本的な観点を以下に示す。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

9-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。

9-2 教員及び教育支援者等の資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

基本的な観点

9-1-① 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

9-1-② 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

9-1-③ 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

9-1-④ 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

9-1-⑤ 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

9-2-① ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

9-2-② 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

基準9に関わる自由記述の意見として、「基準3との区別がはっきりしない」という意見、「旧観点9-1-⑤と観点9-2-②は教員の資質の向上として一つにまとめられる」という意見、「旧観点9-2-②は、スタッフ・ディベロップメントとして、基準11に取り

込むべき」との意見がある。

新基準の観点9-1-②では「学生」の意見の聴取は「学校の構成員（教職員、学生）」の意見の聴取と拡充し、教育の状況に関する自己点検・評価の前に、学校教育法施行規則第166条並びに平成20年12月に報告された中央教育審議会答申（学士課程教育の構築に向けて）（中央教育審議会(2008)(2)）における自己点検・評価の方法についての方策を踏まえ「学校として策定した自己点検・評価基準によって」自己点検・評価を行うことを明示する追加を行った。また、旧観点9-1-②と9-1-③並びに9-2-①と②を統合して、それぞれ9-1-②、9-2-①として、一つの観点とするとともに、新たに9-2-②にスタッフ・ディベロップメント（教育支援者等に対する研修）を設けることとし、さらには、括弧内の例示は全て削除した。

3. 10 基準10 財務

第2サイクル用に改訂された新たな基準10とその基本的な観点を以下に示す。

基準10 財務

10-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。

10-2 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。

10-3 学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。

基本的な観点

10-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

10-1-② 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

10-1-③ 学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。

10-2-① 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

10-2-② 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

10-2-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

10-3-① 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

10-3-② 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

基準10に関わる自由記述の意見では、「国立高専については、基準10-1と10-3

については、問う必要がないのではないか」という意見、「必要な資料の統一基準を明示しないと、すべての高専で判断保留となってしまう」などの意見が見られた。前者については、本認証評価は、国立、公立、私立すべての高等専門学校を対象としているので、基準10-1と10-3を国立高専だけを対象に削除することは、適切ではないこと、後者の意見については、「高等専門学校評価基準及び選択的評価事項の分析に当たっての留意点等について」等での解説、説明会、研修会での説明により、要求している資料について周知徹底することが適当と考えられた。

これらから、財務に関するこれまでの基準並びに基本的な観点は特に変更、修正は要しないと考えたが、外部資源の活用の重要性が近年ますます増しているという時代の要請に配慮して、趣旨にこの点についての記述を行い、かつ、新たな観点10-1-③として、「学校の目的を達成するために、外部資源の活用策を策定し、実行しているか。」という観点を加えた。

3. 1.1 基準1.1 管理運営

第2サイクル用に改訂された新たな基準1.1とその基本的な観点を以下に示す。

基準1.1 管理運営

11-1 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。

11-2 学校の目的を達成するために、高等専門学校の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていること。また、その結果を受け、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されていること。

11-3 学校の目的を達成するために、外部有識者等の意見が適切に管理運営に反映されていること。また、外部の教育資源を積極的に活用していること。

11-4 高等専門学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。

基本的な観点

11-1-① 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

11-1-② 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

11-2-① 自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

11-2-② 自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。

- 11-2-③ 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。
- 11-3-① 外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。
- 11-3-② 学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。
- 11-4-① 高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

基準11に関わる自由記述の意見では、「旧観点11-3-②は、基準9の旧観点9-1-④と重複しているのではないか」という意見、「管理運営の組織図を基本的な観点の記述に盛り込むと良い」という意見、「基準、観点の中に、組織と責任、指令、命令系統を明らかにする事項が必要である」という意見、「基準を満たすためのプロセスを問う必要がある」という意見、「危機管理やコンプライアンスに関する観点も必要」といった意見があった。これらの意見は、危機管理に関するものを除けば、現状でも評価は可能であり、主に研修会等での説明が不足していたために生じた意見と考えられた。

これらのことから、基準11の趣旨並びに基本的な観点11-1-②に、危機管理体制に関する文言を追加した。また、基準11-2は自己点検・評価に関わることとし、基準11-3は外部有識者の意見並びに外部の教育資源の活用として、基準及び基本的な観点を整理、拡充した。このため、基本的な観点11-3-①にある（第三者評価）は本観点から削除し、新たな基準11-3で問うこととした。そして、平成23年4月に改正施行された学校教育法施行規則第172条の2に新たに盛り込まれた、「教育研究活動等の情報の公表」への対応を基準11-4として、趣旨並びに基本的な観点にその内容を盛り込んだ内容を記述及び追加した。

3. 1 2 選択的評価事項 A 研究活動の状況

アンケートの自由記述欄の意見では、「選択的評価事項Aは認証評価の評価基準に組み入れるべきである」という意見と、「あえて別に設ける必要はなく削除すべきである」という両方の意見があり、数としては前者が多数となっていた。その他、「評価が基準10の財務と重複している」という意見、「選択的評価事項の評価結果は社会に誤解を与える危惧がある」、「選択的評価事項は、事項を定めず各高専で得意とする事項での評価を望む」といった意見が見られた。

選択的評価事項、研究活動の状況では、組織としての研究活動について問うているもので、個々の教員の研究業績評価ではなく、個々の教員の研究活動に関連しては、認証評価基準の基準5において、専攻科課程の研究指導について分析を求め、また、基準9では、研究が教育の質の改善に寄与しているかの分析を求めている。選択的評価事項を認証評価

基準に統合せよという意見も削除せよという意見も十分認証評価制度を理解しての意見とは考えられない。それぞれの高専の得意なものを評価する仕組みは、目的にそれを掲げ、独自の観点を設けることにより、認証評価の中で実施することが可能である。

以上を勘案して、選択的評価事項Aについては、特に修正、追加、変更の必要はないと判断される。

3. 1 3 選択的評価事項 B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

アンケートの自由記述欄の意見は選択的評価事項B単独についての意見はなかったが、「選択的評価事項も認証評価基準に組み込むこと」また、「選択的評価事項は削除すべき」という対立する意見があり、前者が多数となっている。

以上から、選択的評価事項Bについても、特に修正、追加、変更の必要はないと判断された。

文献

- [1] 野澤庸則・齋藤貴浩・林隆之・渋井進（2010）. 「高等専門学校機関別認証評価結果から見た高等専門学校の現状と認証評価の効果」『大学評価・学位研究』、11, 3-28.
- [2] 高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書、独立行政法人大学評価・学位授与機構、（平成19年3月、平成19年11月、平成21年1月、平成22年1月、平成24年1月）
- [3] 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）付選択的評価事項 独立行政法人大学評価・学位授与機構、平成17年3月（平成22年3月改訂）
http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/hyouka/index.html
- [4] 中央教育審議会（2008）(1)「高等専門学校教育の充実についてーものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指してー（答申）」、文部科学省
- [5] 中央教育審議会（2008）(2)「学士課程教育の構築に向けて（答申）」、文部科学省

参考資料 1

選択式のアンケート結果

認証評価検証結果経年分析【対象校】

【①評価基準及び観点について】

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質を保証するために適切であった	H17	6	33%	11	61%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H18	2	11%	15	83%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H19	5	25%	14	70%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		15	25%	42	70%	3	5%	0	0%	0	0%	60	4.20

教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	H17	6	33%	9	50%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	6	30%	13	65%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		16	27%	36	60%	8	13%	0	0%	0	0%	60	4.13

教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	H17	6	33%	10	56%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	2	10%	11	55%	6	30%	1	5%	0	0%	20	3.70
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		12	20%	34	57%	13	22%	1	2%	0	0%	60	3.95

教育活動を中心に設定していることは適切であった	H17	8	44%	10	56%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.44
	H18	5	28%	13	72%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H19	6	30%	11	55%	2	10%	1	5%	0	0%	20	4.10
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		22	37%	35	58%	2	3%	1	2%	0	0%	60	4.30

【H17～18】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【H19～22】2: ある～1: ない

		5		4		3		2		1		合計	平均
自己評価しにくい評価基準又は観点があった	H17	3	17%	4	22%	8	44%	1	6%	2	11%	18	3.28
	H18	1	6%	5	28%	8	44%	4	22%	0	0%	18	3.17
	H19							8	40%	12	60%	20	1.40
	H20							0	0%	2	100%	2	1.00
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							0	0%	2	100%	2	1.00
合計							8	33%	16	67%	24	1.33	

【H18から新設】2: ある～1: ない

		2		1		合計	平均
内容が重複する評価基準又は観点があった	H17						
	H18						
	H19	5	28%	13	72%	18	1.28
	H20	3	15%	17	85%	20	1.15
	H21	1	50%	1	50%	2	1.50
	H22	-	-	-	-	-	-
合計	9	21%	33	79%	42	1.21	

【②評価の方法及び内容】

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	H17	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	5	28%	12	67%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	16	27%	39	65%	5	8%	0	0%	0	0%	60	4.18

自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた	H17	1	6%	10	56%	4	22%	2	11%	1	6%	18	3.44
	H18	0	0%	8	44%	6	33%	3	17%	1	6%	18	3.17
	H19	0	0%	6	30%	8	40%	5	25%	1	5%	20	2.95
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	2	2.00
	合計	2	3%	25	42%	18	30%	12	20%	3	5%	60	3.18

【H17～19】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない
【H20～22】2: 迷った～1: 迷っていない

		5		4		3		2		1		合計	平均	
自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	H17	1	6%	8	44%	4	22%	3	17%	2	11%	18	3.17	
	H18	0	0%	7	39%	7	39%	2	11%	2	11%	18	3.06	
	H19	0	0%	3	15%	13	65%	4	20%	0	0%	20	2.95	
	H20								1	50%	1	50%	2	1.50
	H21								-	-	-	-	-	-
	H22								1	50%	1	50%	2	1.50
	合計								2	50%	2	50%	4	1.50

※平成17～19年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
総合的な状況が広く社会等の理解を得るため、わかりやすい自己評価書にすることができた	H17	3	17%	9	50%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H18	4	22%	8	44%	5	28%	1	6%	0	0%	18	3.83
	H19	1	5%	15	75%	3	15%	1	5%	0	0%	20	3.80
	H20	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	3.00
	合計	8	13%	33	55%	17	28%	2	3%	0	0%	60	3.78

自己評価書の完成度は満足できるものであった	H17	1	6%	12	67%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.78
	H18	2	11%	10	56%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.78
	H19	3	15%	10	50%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.80
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	8	13%	32	53%	20	33%	0	0%	0	0%	60	3.80

文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	H17	2	11%	7	39%	5	28%	3	17%	1	6%	18	3.33
	H18	0	0%	6	33%	8	44%	3	17%	1	6%	18	3.06
	H19	5	25%	6	30%	4	20%	3	15%	2	10%	20	3.45
	H20	0	0%	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	2	2.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	7	12%	21	35%	18	30%	10	17%	4	7%	60	3.28

【H18から新設】2: 参考にした～1: 参考にしなかった

		2		1		合計	平均
すでに機構の認証評価を受けた他高専の自己評価書を参考にした	H17						
	H18						
	H19	12	71%	5	29%	17	1.71
	H20	2	100%	0	0%	2	2.00
	H21	-	-	-	-	-	-
	H22	2	100%	0	0%	2	2.00
	合計	34	83%	7	17%	41	1.83

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	H17	5	28%	7	39%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H18	4	22%	10	56%	3	17%	1	6%	0	0%	18	3.94
	H19	4	20%	11	55%	5	25%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	15	25%	30	50%	14	23%	1	2%	0	0%	60	3.98

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	H17	5	28%	9	50%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H18	4	22%	9	50%	4	22%	0	0%	1	6%	18	3.83
	H19	3	15%	12	60%	5	25%	0	0%	0	0%	20	3.90
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	14	23%	32	53%	13	22%	0	0%	1	2%	60	3.97
訪問調査時に機構の評価担当者が質問した内容は適切であった	H17	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	3	17%	14	78%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	4	20%	13	65%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.05
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	13	22%	42	70%	5	8%	0	0%	0	0%	60	4.13
訪問調査時の実施内容は適切であった	H17	6	33%	11	61%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	19	32%	37	62%	4	7%	0	0%	0	0%	60	4.25
訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	H17	4	22%	10	56%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H18	8	44%	8	44%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H19	5	25%	14	70%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	20	33%	32	53%	8	13%	0	0%	0	0%	60	4.20
訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	H17	7	39%	5	28%	6	33%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H18	7	39%	8	44%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	6	30%	11	55%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	21	35%	27	45%	12	20%	0	0%	0	0%	60	4.15
訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	H17	5	29%	8	47%	4	24%	0	0%	0	0%	17	4.06
	H18	8	44%	7	39%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H19	5	25%	12	60%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.10
	H20	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	20	34%	28	48%	10	17%	0	0%	0	0%	58	4.17
意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	H17	7	41%	6	35%	4	24%	0	0%	0	0%	17	4.18
	H18	5	29%	6	35%	6	35%	0	0%	0	0%	17	3.94
	H19	6	30%	11	55%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	21	36%	24	41%	13	22%	0	0%	0	0%	58	4.14
「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった	H17	5	31%	6	38%	5	31%	0	0%	0	0%	16	4.00
	H18	1	11%	3	33%	5	56%	0	0%	0	0%	9	3.56
	H19	4	20%	10	50%	6	30%	0	0%	0	0%	20	3.90
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	13	27%	19	39%	17	35%	0	0%	0	0%	49	3.92
意見の申立てに対する機構の対応は適切であった(意見の申立てを行った対象校のみ)	H17	0	0%	3	27%	7	64%	1	9%	0	0%	11	3.18
	H18	2	25%	1	13%	5	63%	0	0%	0	0%	8	3.63
	H19	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H20	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	合計	2	10%	5	25%	12	60%	1	5%	0	0%	20	3.40

【③評価の作業量、スケジュール等】

5:とても大きい(とても長い)～3:適当～1:とても小さい(とても短い)

		5		4		3		2		1		合計	平均
自己評価書の作成(作業量)	H17	9	50%	5	28%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H18	12	67%	4	22%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.56
	H19	13	65%	6	30%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.60
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	合計	38	63%	15	25%	7	12%	0	0%	0	0%	60	4.52
自己評価書の作成(作業期間)	H17	3	17%	5	28%	7	39%	2	11%	1	6%	18	3.39
	H18	4	22%	5	28%	8	44%	1	6%	0	0%	18	3.67
	H19	7	35%	5	25%	8	40%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	16	27%	15	25%	25	42%	3	5%	1	2%	60	3.70
「訪問調査時の確認事項」への対応(作業量)	H17	2	11%	8	44%	8	44%	0	0%	0	0%	18	3.67
	H18	3	17%	8	44%	7	39%	0	0%	0	0%	18	3.78
	H19	2	10%	10	50%	8	40%	0	0%	0	0%	20	3.70
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	8	13%	29	48%	23	38%	0	0%	0	0%	60	3.75
「訪問調査時の確認事項」への対応(作業期間)	H17	1	6%	3	17%	13	72%	1	6%	0	0%	18	3.22
	H18	0	0%	4	22%	9	50%	4	22%	1	6%	18	2.89
	H19	1	5%	6	30%	8	40%	5	25%	0	0%	20	3.15
	H20	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	2	3.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	2	3%	15	25%	31	52%	11	18%	1	2%	60	3.10
訪問調査のための事前準備(作業量)	H17	1	6%	5	28%	12	67%	0	0%	0	0%	18	3.39
	H18	0	0%	12	67%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.67
	H19	1	5%	11	55%	8	40%	0	0%	0	0%	20	3.65
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	2	3%	32	53%	26	43%	0	0%	0	0%	60	3.60
訪問調査のための事前準備(作業期間)	H17	1	6%	2	11%	13	72%	2	11%	0	0%	18	3.11
	H18	0	0%	3	17%	12	67%	3	17%	0	0%	18	3.00
	H19	1	5%	2	10%	12	60%	5	25%	0	0%	20	2.95
	H20	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	2	3.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	2	3%	9	15%	38	63%	11	18%	0	0%	60	3.03
訪問調査当日の対応(作業量)	H17	1	6%	1	6%	15	83%	1	6%	0	0%	18	3.11
	H18	2	11%	5	28%	11	61%	0	0%	0	0%	18	3.50
	H19	1	5%	7	35%	12	60%	0	0%	0	0%	20	3.45
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	5	8%	14	23%	40	67%	1	2%	0	0%	60	3.38
訪問調査当日の対応(作業期間)	H17	1	6%	0	0%	16	89%	1	6%	0	0%	18	3.06
	H18	1	6%	4	22%	13	72%	0	0%	0	0%	18	3.33
	H19	1	5%	2	10%	16	80%	1	5%	0	0%	20	3.15
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	3.00
	合計	4	7%	6	10%	48	80%	2	3%	0	0%	60	3.20

5: とても大きい(とても長い)～3: 適当～1: とても小さい(とても短い)

		5		4		3		2		1		合計	平均
意見の申立て(作業量)	H17	0	0%	2	14%	8	57%	2	14%	2	14%	14	2.71
	H18	0	0%	0	0%	14	93%	0	0%	1	7%	15	2.87
	H19	0	0%	1	6%	10	63%	3	19%	2	13%	16	2.63
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	3.00
合計		1	2%	3	6%	35	71%	5	10%	5	10%	49	2.80

意見の申立て(作業期間)	H17	0	0%	2	14%	9	64%	1	7%	2	14%	14	2.79
	H18	0	0%	0	0%	14	93%	1	7%	0	0%	15	2.93
	H19	0	0%	1	6%	11	69%	3	19%	1	6%	16	2.75
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2	3.00
合計		1	2%	3	6%	37	76%	5	10%	3	6%	49	2.88

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の質保証という目的に見合うものであった	H17	6	33%	9	50%	2	11%	1	6%	0	0%	18	4.11
	H18	3	17%	12	67%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	5	25%	8	40%	6	30%	1	5%	0	0%	20	3.85
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		14	23%	33	55%	11	18%	2	3%	0	0%	60	3.98

評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	H17	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H18	3	17%	12	67%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	4	20%	8	40%	7	35%	1	5%	0	0%	20	3.75
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		12	20%	35	58%	12	20%	1	2%	0	0%	60	3.97

評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	H17	6	33%	8	44%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H18	4	22%	6	33%	7	39%	1	6%	0	0%	18	3.72
	H19	2	10%	7	35%	8	40%	3	15%	0	0%	20	3.40
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	2	3.00
合計		12	20%	24	40%	19	32%	5	8%	0	0%	60	3.72

2: 適当～1: 適当でない

		2		1		合計	平均
自己評価書の提出時期は適当であった	H17	17	94%	1	6%	18	1.94
	H18	17	94%	1	6%	18	1.94
	H19	17	85%	3	15%	20	1.85
	H20	1	50%	1	50%	2	1.50
	H21	-	-	-	-	-	-
	H22	2	100%	0	0%	2	2.00
合計		54	90%	6	10%	60	1.90

訪問調査の実施時期は適当であった	H17	18	100%	0	0%	18	2.00
	H18	18	100%	0	0%	18	2.00
	H19	20	100%	0	0%	20	2.00
	H20	2	100%	0	0%	2	2.00
	H21	-	-	-	-	-	-
	H22	2	100%	0	0%	2	2.00
合計		60	100%	0	0%	60	2.00

【④説明会・研修会等】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
説明会の配付資料は理解しやすかった	H17	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	2	11%	11	61%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H19	3	15%	13	65%	4	20%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		11	18%	39	65%	10	17%	0	0%	0	0%	60	4.02
説明会の内容は理解しやすかった	H17	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H18	4	22%	10	56%	3	17%	1	6%	0	0%	18	3.94
	H19	3	15%	13	65%	4	20%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		14	23%	36	60%	9	15%	1	2%	0	0%	60	4.05
説明会の内容は役立った	H17	5	28%	11	61%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H18	8	44%	8	44%	1	6%	1	6%	0	0%	18	4.28
	H19	6	30%	13	65%	1	5%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		22	37%	33	55%	4	7%	1	2%	0	0%	60	4.27
自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	H17	6	33%	10	56%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	3	17%	9	50%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H19	3	15%	15	75%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.05
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		13	22%	37	62%	10	17%	0	0%	0	0%	60	4.05
自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	H17	5	29%	11	65%	1	6%	0	0%	0	0%	17	4.24
	H18	5	28%	9	50%	3	17%	1	6%	0	0%	18	4.00
	H19	4	20%	12	60%	4	20%	0	0%	0	0%	20	4.00
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		16	27%	34	58%	8	14%	1	2%	0	0%	59	4.10
自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	H17	7	39%	10	56%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H18	8	44%	4	22%	6	33%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	7	35%	10	50%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		25	42%	25	42%	10	17%	0	0%	0	0%	60	4.25
機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	H17	7	39%	10	56%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H18	10	56%	7	39%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.50
	H19	7	35%	10	50%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		27	45%	28	47%	5	8%	0	0%	0	0%	60	4.37
機構が行った訪問説明は役立った	H17	9	50%	8	44%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.44
	H18	7	39%	9	50%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H19	10	53%	8	42%	1	5%	0	0%	0	0%	19	4.47
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		28	47%	27	46%	4	7%	0	0%	0	0%	59	4.41
説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	H17	9	50%	9	50%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.50
	H18	7	39%	10	56%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H19	8	40%	9	45%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計		27	45%	29	48%	4	7%	0	0%	0	0%	60	4.38

【⑤評価結果(評価報告書)】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	H17	5	28%	12	67%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	8	40%	7	35%	5	25%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計	20	33%	33	55%	7	12%	0	0%	0	0%	60	4.22	
教育研究活動等の改善に役立つものであった	H17	9	50%	9	50%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.50
	H18	2	11%	14	78%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計	20	33%	35	58%	5	8%	0	0%	0	0%	60	4.25	
教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	H17	4	22%	10	56%	3	17%	1	6%	0	0%	18	3.94
	H18	2	11%	10	56%	4	22%	2	11%	0	0%	18	3.67
	H19	4	20%	10	50%	6	30%	0	0%	0	0%	20	3.90
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計	12	20%	31	52%	14	23%	3	5%	0	0%	60	3.87	
目的に照らし適切なものであった	H17	4	22%	12	67%	1	6%	1	6%	0	0%	18	4.06
	H18	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	7	35%	11	55%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計	18	30%	36	60%	5	8%	1	2%	0	0%	60	4.18	
実態に即したものであった	H17	4	22%	12	67%	1	6%	1	6%	0	0%	18	4.06
	H18	3	17%	13	72%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H19	11	55%	7	35%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.45
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
合計	21	35%	33	55%	5	8%	1	2%	0	0%	60	4.23	
規模等を考慮したものであった	H17	4	22%	10	56%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H18	3	17%	9	50%	5	28%	1	6%	0	0%	18	3.78
	H19	8	40%	9	45%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計	17	28%	30	50%	12	20%	1	2%	0	0%	60	4.05	
教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	H17	5	28%	9	50%	3	17%	1	6%	0	0%	18	4.00
	H18	4	22%	10	56%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	6	30%	7	35%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計	16	27%	28	47%	15	25%	1	2%	0	0%	60	3.98	
構成及び内容は分かりやすいものであった	H17	6	33%	12	67%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H18	6	33%	10	56%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	5	25%	15	75%	0	0%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計	19	32%	39	65%	2	3%	0	0%	0	0%	60	4.28	
総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	H17	7	41%	8	47%	2	12%	0	0%	0	0%	17	4.29
	H18	6	33%	12	67%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H19	8	40%	11	55%	0	0%	1	5%	0	0%	20	4.30
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計	23	39%	33	56%	2	3%	1	2%	0	0%	59	4.32	

【H17～18】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない
 【H19～22】2: している～1: していない

		5		4		3		2		1		合計	平均
今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している ※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	H17	9	53%	5	29%	3	18%	0	0%	0	0%	17	4.35
	H18	3	17%	9	50%	5	28%	0	0%	1	6%	18	3.72
	H19							16	80%	4	20%	20	1.80
	H20							1	50%	1	50%	2	1.50
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							0	0%	2	100%	2	1.00
	合計							17	71%	7	29%	24	1.71

評価報告書をウェブサイトなどで公表している ※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	H17	8	47%	7	41%	2	12%	0	0%	0	0%	17	4.35
	H18	4	22%	8	44%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H19							16	80%	4	20%	20	1.80
	H20							2	100%	0	0%	2	2.00
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							0	0%	2	100%	2	1.00
	合計							18	75%	6	25%	24	1.75

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
マスメディア等から適切な報道がなされた	H17	3	18%	4	24%	5	29%	4	24%	1	6%	17	3.24
	H18	1	6%	1	6%	11	61%	4	22%	1	6%	18	2.83
	H19	0	0%	4	21%	9	47%	3	16%	3	16%	19	2.74
	H20	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1	1.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	2	2.00
	合計	4	7%	9	16%	26	46%	11	19%	7	12%	57	2.86

【⑥評価を行ったことによる効果・影響】
 【自己評価を行ったことによる効果・影響】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等について全般的に把握することができた	H17	7	39%	10	56%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H18	7	32%	10	56%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.33
	H19	7	35%	10	50%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	23	38%	32	53%	5	8%	0	0%	0	0%	60	4.30

教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	H17	9	50%	9	50%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.50
	H18	4	22%	14	78%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	6	30%	13	65%	0	0%	1	5%	0	0%	20	4.20
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	22	37%	37	62%	0	0%	1	2%	0	0%	60	4.33

教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	H17	3	17%	9	50%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H18	1	6%	13	72%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H19	2	10%	9	45%	8	40%	1	5%	0	0%	20	3.60
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	7	12%	34	57%	18	30%	1	2%	0	0%	60	3.78

各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	H17	2	11%	12	67%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H18	1	6%	9	50%	8	44%	0	0%	0	0%	18	3.61
	H19	2	10%	6	30%	12	60%	0	0%	0	0%	20	3.50
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	5	8%	30	50%	25	42%	0	0%	0	0%	60	3.67

教育研究活動等の改善を促進した	H17	5	28%	10	56%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H18	3	17%	12	67%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	4	20%	11	55%	5	25%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	13	22%	36	60%	11	18%	0	0%	0	0%	60	4.03

【H19から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
将来計画の策定に役立った	H17												
	H18												
	H19	1	5%	12	60%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.70
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	3	13%	13	54%	8	33%	0	0%	0	0%	24	3.79

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
学校全体のマネジメントの改善を促進した	H17	2	11%	14	78%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H18	1	6%	14	78%	3	17%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H19	1	5%	12	60%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.70
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	6	10%	42	70%	12	20%	0	0%	0	0%	60	3.90

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
個性的な取組を促進した	H17	2	11%	7	39%	9	50%	0	0%	0	0%	18	3.61
	H18	1	6%	11	61%	5	28%	1	6%	0	0%	18	3.67
	H19	3	15%	8	40%	9	45%	0	0%	0	0%	20	3.70
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計	9	15%	26	43%	24	40%	1	2%	0	0%	60	3.72	

自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	H17	3	17%	10	56%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H18	0	0%	13	72%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.72
	H19	3	15%	7	35%	10	50%	0	0%	0	0%	20	3.65
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計	7	12%	32	53%	21	35%	0	0%	0	0%	60	3.77	

【H19から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	H17												
	H18												
	H19	3	15%	10	50%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.80
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計	3	13%	13	54%	8	33%	0	0%	0	0%	24	3.79	

【評価結果を受けたことによる今後の効果・影響】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等について全般的に把握することができる	H17	6	33%	10	56%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	5	25%	12	60%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.10
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	17	28%	37	62%	6	10%	0	0%	0	0%	60	4.18

教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	H17	7	39%	11	61%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.39
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	5	25%	13	65%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	17	28%	40	67%	3	5%	0	0%	0	0%	60	4.23

教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	H17	6	33%	6	33%	6	33%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H18	2	11%	13	72%	3	17%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	2	10%	12	60%	5	25%	1	5%	0	0%	20	3.75
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	11	18%	33	55%	15	25%	1	2%	0	0%	60	3.90

各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	H17	3	17%	10	56%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H18	3	17%	9	50%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H19	1	5%	10	50%	8	40%	1	5%	0	0%	20	3.55
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
	合計	7	12%	32	53%	20	33%	1	2%	0	0%	60	3.75

教育研究活動等の改善を促進する	H17	5	28%	13	72%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H18	3	17%	12	67%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	6	30%	9	45%	5	25%	0	0%	0	0%	20	4.05
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	15	25%	37	62%	8	13%	0	0%	0	0%	60	4.12

【H19から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
将来計画の策定に役立つ	H17												
	H18												
	H19	2	10%	11	55%	7	35%	0	0%	0	0%	20	3.75
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	合計	4	17%	13	54%	7	29%	0	0%	0	0%	24	3.88

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
学校全体のマネジメントの改善を促進する	H17	5	28%	12	67%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	2	10%	12	60%	6	30%	0	0%	0	0%	20	3.80
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	合計	13	22%	39	65%	8	13%	0	0%	0	0%	60	4.08

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
個性的な取組を促進する	H17	3	17%	8	44%	6	33%	1	6%	0	0%	18	3.72
	H18	3	17%	10	56%	4	22%	1	6%	0	0%	18	3.83
	H19	5	25%	9	45%	6	30%	0	0%	0	0%	20	3.95
	H20	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		14	23%	27	45%	17	28%	2	3%	0	0%	60	3.88

自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	H17	6	33%	8	44%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H18	2	11%	11	61%	5	28%	0	0%	0	0%	18	3.83
	H19	3	15%	10	50%	6	30%	1	5%	0	0%	20	3.75
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		11	18%	32	53%	16	27%	1	2%	0	0%	60	3.88

教職員に評価結果の内容が浸透する	H17	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H18	5	28%	10	56%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	2	10%	8	40%	9	45%	1	5%	0	0%	20	3.55
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		10	17%	32	53%	17	28%	1	2%	0	0%	60	3.85

【H19から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	H17												
	H18												
	H19	2	10%	10	50%	8	40%	0	0%	0	0%	20	3.70
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		3	13%	12	50%	9	38%	0	0%	0	0%	24	3.75

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質が保証される	H17	7	39%	11	61%	0	0%	0	0%	0	0%	18	4.39
	H18	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	6	30%	9	45%	5	25%	0	0%	0	0%	20	4.05
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
合計		18	30%	35	58%	7	12%	0	0%	0	0%	60	4.18

学生の理解と支持が得られる	H17	2	11%	10	56%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.78
	H18	0	0%	11	61%	7	39%	0	0%	0	0%	18	3.61
	H19	2	10%	7	35%	11	55%	0	0%	0	0%	20	3.55
	H20	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	2	3.50
合計		4	7%	31	52%	25	42%	0	0%	0	0%	60	3.65

広く社会の理解と支持が得られる	H17	5	28%	8	44%	5	28%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H18	1	6%	10	56%	5	28%	2	11%	0	0%	18	3.56
	H19	1	5%	9	45%	10	50%	0	0%	0	0%	20	3.55
	H20	1	50%	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	2	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	2	3.00
合計		8	13%	29	48%	20	33%	3	5%	0	0%	60	3.70

他高専の評価結果から優れた取組を参考にする	H17	3	17%	13	72%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H18	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	2	10%	9	45%	8	40%	1	5%	0	0%	20	3.60
	H20	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	0	0%	2	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	50%	0	0%	1	50%	0	0%	2	3.00
合計		10	17%	35	58%	13	22%	2	3%	0	0%	60	3.88

選択的評価事項に係る評価検証結果経年分析【対象校】

【H18から新設】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった	H17												
	H18	5	28%	8	44%	5	28%	0	0%	0	0%	18	4.00
	H19	7	35%	9	45%	4	20%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
合計	14	35%	17	43%	9	23%	0	0%	0	0%	40	4.13	

【選択A】「研究活動の状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	H17												
	H18	6	33%	9	50%	3	17%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	8	40%	8	40%	3	15%	1	5%	0	0%	20	4.15
	H20	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	15	38%	18	45%	6	15%	1	3%	0	0%	40	4.18	

【選択B】「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	H17												
	H18	5	28%	9	50%	4	22%	0	0%	0	0%	18	4.06
	H19	7	35%	9	45%	4	20%	0	0%	0	0%	20	4.15
	H20	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	13	33%	19	48%	8	20%	0	0%	0	0%	40	4.13	

【選択A】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	H17												
	H18	5	28%	11	61%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	5	26%	9	47%	5	26%	0	0%	0	0%	19	4.00
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	10	26%	22	56%	7	18%	0	0%	0	0%	39	4.08	

【選択B】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	H17												
	H18	4	22%	12	67%	2	11%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	7	35%	8	40%	5	25%	0	0%	0	0%	20	4.10
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	11	28%	22	55%	7	18%	0	0%	0	0%	40	4.10	

【選択A】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	H17												
	H18	3	17%	11	61%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.94
	H19	5	25%	12	60%	3	15%	0	0%	0	0%	20	4.10
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	8	20%	25	63%	7	18%	0	0%	0	0%	40	4.03	

【選択B】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	H17												
	H18	2	11%	12	67%	4	22%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H19	6	30%	10	50%	4	20%	0	0%	0	0%	20	4.10
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	8	20%	24	60%	8	20%	0	0%	0	0%	40	4.00	

【H18から新設】【H18～19】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【H20～22】2: 迷った～1: 迷っていない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	H17												
	H18	2	6%	3	8%	13	36%	10	28%	8	22%	36	2.47
	H19	0	0%	2	5%	15	38%	16	40%	7	18%	40	2.30
	H20							0	0%	1	100%	1	1.00
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							1	100%	0	0%	1	2.00
合計							1	50%	1	50%	2	1.50	

※平成18～19年度は事項ごとの回答を合算したものであり、また、5段階評価となっているため、除外して合計を算出

【H18から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
【選択A】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	H17												
	H18	5	28%	12	67%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	11	28%	26	65%	3	8%	0	0%	0	0%	40	4.20	

【選択B】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	H17												
	H18	5	28%	12	67%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.22
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	11	28%	26	65%	3	8%	0	0%	0	0%	40	4.20	

【選択A】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	H17												
	H18	3	17%	14	78%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.11
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	9	23%	28	70%	3	8%	0	0%	0	0%	40	4.15	

【選択B】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	H17												
	H18	4	22%	13	72%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.17
	H19	7	35%	11	55%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.25
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
合計	11	28%	26	65%	3	8%	0	0%	0	0%	40	4.20	

総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	H17												
	H18	6	33%	11	61%	1	6%	0	0%	0	0%	18	4.28
	H19	6	30%	12	60%	2	10%	0	0%	0	0%	20	4.20
	H20	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5.00
合計	13	33%	24	60%	3	8%	0	0%	0	0%	40	4.25	

【H18から新設】【H18】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない
【H19～22】2: している～1: していない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	H17												
	H18	2	11%	8	44%	7	39%	0	0%	1	6%	18	3.56
	H19						14	70%	6	30%	20	1.70	
	H20						1	100%	0	0%	1	2.00	
	H21						-	-	-	-	-	-	
	H22						0	0%	1	100%	1	1.00	
合計						15	68%	7	32%	22	1.68		

評価報告書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	H17												
	H18	4	22%	8	44%	6	33%	0	0%	0	0%	18	3.89
	H19						15	75%	5	25%	20	1.75	
	H20						0	0%	1	100%	1	1.00	
	H21						-	-	-	-	-	-	
	H22						0	0%	1	100%	1	1.00	
合計						15	68%	7	32%	22	1.68		

認証評価検証結果経年分析【評価担当者】

①評価基準及び観点について

5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
教育研究活動等の質を保証するために適切であった	H17	7	23%	19	63%	4	13%	0	0%	0	0%	30	4.10
	H18	8	19%	32	74%	3	7%	0	0%	0	0%	43	4.12
	H19	13	22%	42	71%	4	7%	0	0%	0	0%	59	4.15
	H20	5	50%	4	40%	1	10%	0	0%	0	0%	10	4.40
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	5	71%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.00
	合計	34	23%	102	68%	13	9%	0	0%	0	0%	149	4.14

教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	H17	8	27%	19	63%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.17
	H18	12	28%	26	60%	5	12%	0	0%	0	0%	43	4.16
	H19	13	22%	41	69%	5	8%	0	0%	0	0%	59	4.14
	H20	3	30%	7	70%	0	0%	0	0%	0	0%	10	4.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	6	86%	1	14%	0	0%	0	0%	7	3.86
	合計	36	24%	99	66%	14	9%	0	0%	0	0%	149	4.15

教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	H17	3	10%	21	70%	5	17%	1	3%	0	0%	30	3.87
	H18	9	21%	27	63%	6	14%	1	2%	0	0%	43	4.02
	H19	17	29%	35	59%	7	12%	0	0%	0	0%	59	4.17
	H20	3	30%	5	50%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.10
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	4	57%	3	43%	0	0%	0	0%	7	3.57
	合計	32	21%	92	62%	23	15%	2	1%	0	0%	149	4.03

教育活動を中心に設定していることは適切であった	H17	15	50%	12	40%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.40
	H18	17	40%	23	53%	3	7%	0	0%	0	0%	43	4.33
	H19	28	47%	26	44%	3	5%	2	3%	0	0%	59	4.36
	H20	5	50%	5	50%	0	0%	0	0%	0	0%	10	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	29%	4	57%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.14
	合計	67	45%	70	47%	10	7%	2	1%	0	0%	149	4.36

【H17～18】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【H19～22】2: ある～1: ない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価しにくい評価基準又は観点があった	H17	5	17%	12	40%	8	27%	4	13%	1	3%	30	3.53
	H18	1	2%	14	33%	14	33%	14	33%	0	0%	43	3.05
	H19							24	41%	34	59%	58	1.41
	H20							4	40%	6	60%	10	1.40
	H21							-	-	-	-	-	-
	H22							4	57%	3	43%	7	1.57
	合計							32	43%	43	57%	75	1.43

【H18から新設】2: ある～1: ない

		2		1		合計	平均
内容が重複する評価基準又は観点があった	H17						
	H18	8	20%	33	80%	41	1.20
	H19	7	13%	49	88%	56	1.13
	H20	2	20%	8	80%	10	1.20
	H21	-	-	-	-	-	-
	H22	4	57%	3	43%	7	1.57
	合計	21	18%	93	82%	114	1.18

【②評価の方法及び内容・結果について】
【自己評価書・書面調査について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
自己評価書は理解しやすかった	H17	1	3%	6	20%	18	60%	5	17%	0	0%	30	3.10
	H18	0	0%	12	28%	23	53%	8	19%	0	0%	43	3.09
	H19	2	3%	19	33%	29	50%	7	12%	1	2%	58	3.24
	H20	1	10%	3	30%	4	40%	2	20%	0	0%	10	3.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	0	0%	3	43%	3	43%	0	0%	7	2.86
	合計	5	3%	40	27%	77	52%	25	17%	1	1%	148	3.16
自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	H17	0	0%	7	23%	19	63%	4	13%	0	0%	30	3.10
	H18	2	5%	18	42%	17	40%	6	14%	0	0%	43	3.37
	H19	2	3%	27	47%	25	43%	4	7%	0	0%	58	3.47
	H20	2	20%	2	20%	3	30%	3	30%	0	0%	10	3.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	1	17%	2	33%	2	33%	0	0%	6	3.17
	合計	7	5%	55	37%	66	45%	19	13%	0	0%	147	3.34
自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	H17	0	0%	12	40%	14	47%	3	10%	1	3%	30	3.23
	H18	1	2%	14	33%	19	44%	9	21%	0	0%	43	3.16
	H19	3	5%	20	34%	27	47%	7	12%	1	2%	58	3.29
	H20	0	0%	1	10%	7	70%	2	20%	0	0%	10	2.90
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	3	43%	1	14%	2	29%	0	0%	7	3.43
	合計	5	3%	50	34%	68	46%	23	16%	2	1%	148	3.22
機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	H17	2	7%	20	67%	8	27%	0	0%	0	0%	30	3.80
	H18	5	12%	24	56%	14	33%	0	0%	0	0%	43	3.79
	H19	11	19%	32	55%	12	21%	3	5%	0	0%	58	3.88
	H20	4	40%	4	40%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	3	43%	2	29%	1	14%	0	0%	7	3.57
	合計	23	16%	83	56%	38	26%	4	3%	0	0%	148	3.84
書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	H17	5	17%	8	27%	14	47%	3	10%	0	0%	30	3.50
	H18	1	2%	6	15%	26	63%	5	12%	3	7%	41	2.93
	H19	2	4%	11	19%	33	58%	10	18%	1	2%	57	3.05
	H20	0	0%	2	20%	3	30%	3	30%	2	20%	10	2.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	1	14%	5	71%	0	0%	0	0%	7	3.43
	合計	9	6%	28	19%	81	56%	21	14%	6	4%	145	3.09

【訪問調査について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	H17	1	3%	25	86%	3	10%	0	0%	0	0%	29	3.93
	H18	6	14%	26	60%	11	26%	0	0%	0	0%	43	3.88
	H19	13	22%	36	62%	6	10%	3	5%	0	0%	58	4.02
	H20	2	20%	6	60%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	5	83%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	23	16%	98	67%	22	15%	3	2%	0	0%	146	3.97
訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	H17	12	41%	14	48%	3	10%	0	0%	0	0%	29	4.31
	H18	12	28%	25	58%	5	12%	1	2%	0	0%	43	4.12
	H19	18	31%	32	55%	6	10%	2	3%	0	0%	58	4.14
	H20	3	30%	6	60%	1	10%	0	0%	0	0%	10	4.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.50
	合計	48	33%	80	55%	15	10%	3	2%	0	0%	146	4.18
訪問調査の実施内容は適切であった	H17	9	32%	14	50%	5	18%	0	0%	0	0%	28	4.14
	H18	13	30%	22	51%	8	19%	0	0%	0	0%	43	4.12
	H19	18	31%	27	47%	10	17%	2	3%	1	2%	58	4.02
	H20	7	78%	2	22%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.78
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	4	67%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.00
	合計	48	33%	69	48%	24	17%	2	1%	1	1%	144	4.12

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
対象機関と教育研究活動等の共通理解を得ることができた	H17	9	31%	16	55%	3	10%	1	3%	0	0%	29	4.14
	H18	9	21%	24	56%	9	21%	1	2%	0	0%	43	3.95
	H19	14	25%	36	63%	6	11%	1	2%	0	0%	57	4.11
	H20	3	33%	6	67%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.33
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	3	50%	2	33%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.33
	合計	38	26%	84	58%	19	13%	3	2%	0	0%	144	4.09
訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	H17	9	31%	17	59%	2	7%	1	3%	0	0%	29	4.17
	H18	14	33%	22	51%	7	16%	0	0%	0	0%	43	4.16
	H19	21	37%	32	56%	2	4%	2	4%	0	0%	57	4.26
	H20	3	33%	6	67%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.33
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	3	50%	1	17%	1	17%	0	0%	6	3.67
	合計	48	33%	80	56%	12	8%	4	3%	0	0%	144	4.19
訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	H17	19	66%	9	31%	1	3%	0	0%	0	0%	29	4.62
	H18	26	60%	17	40%	0	0%	0	0%	0	0%	43	4.60
	H19	44	76%	13	22%	1	2%	0	0%	0	0%	58	4.74
	H20	6	67%	3	33%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.67
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	3	50%	2	33%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.33
	合計	98	68%	44	30%	3	2%	0	0%	0	0%	145	4.66

【評価結果について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	H17	7	23%	21	70%	2	7%	0	0%	0	0%	30	4.17
	H18	12	28%	24	56%	7	16%	0	0%	0	0%	43	4.12
	H19	13	22%	40	69%	5	9%	0	0%	0	0%	58	4.14
	H20	4	40%	6	60%	0	0%	0	0%	0	0%	10	4.40
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	38	26%	94	64%	15	10%	0	0%	0	0%	147	4.16
基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	H17	8	27%	16	53%	6	20%	0	0%	0	0%	30	4.07
	H18	9	21%	24	56%	10	23%	0	0%	0	0%	43	3.98
	H19	18	32%	33	58%	5	9%	1	2%	0	0%	57	4.19
	H20	4	40%	4	40%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	3	50%	1	17%	1	17%	0	0%	6	3.67
	合計	40	27%	80	55%	24	16%	2	1%	0	0%	146	4.08
評価結果全体としての分量は適切であった	H17	6	20%	16	53%	8	27%	0	0%	0	0%	30	3.93
	H18	6	14%	25	58%	10	23%	2	5%	0	0%	43	3.81
	H19	9	16%	35	61%	9	16%	3	5%	1	2%	57	3.84
	H20	3	30%	5	50%	2	20%	0	0%	0	0%	10	4.10
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	4	67%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.00
	合計	25	17%	85	58%	30	21%	5	3%	1	1%	146	3.88
全体の評価結果と併せて「主な優れた点」「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	H17	9	30%	16	53%	4	13%	1	3%	0	0%	30	4.10
	H18	11	26%	27	63%	4	9%	1	2%	0	0%	43	4.12
	H19	16	28%	38	67%	1	2%	1	2%	1	2%	57	4.18
	H20	3	30%	6	60%	1	10%	0	0%	0	0%	10	4.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	4	67%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.00
	合計	40	27%	91	62%	11	8%	3	2%	1	1%	146	4.14

【③研修】

5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
研修の配付資料は理解しやすかった	H17	4	14%	21	72%	4	14%	0	0%	0	0%	29	4.00
	H18	10	24%	24	59%	7	17%	0	0%	0	0%	41	4.07
	H19	9	16%	43	78%	3	5%	0	0%	0	0%	55	4.11
	H20	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	27	20%	94	69%	16	12%	0	0%	0	0%	137	4.08
研修の説明内容は理解しやすかった	H17	5	17%	19	66%	5	17%	0	0%	0	0%	29	4.00
	H18	10	24%	26	63%	4	10%	1	2%	0	0%	41	4.10
	H19	13	24%	36	65%	5	9%	1	2%	0	0%	55	4.11
	H20	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	32	23%	87	64%	16	12%	2	1%	0	0%	137	4.09
研修の内容は役立った	H17	10	34%	13	45%	5	17%	1	3%	0	0%	29	4.10
	H18	14	34%	24	59%	2	5%	1	2%	0	0%	41	4.24
	H19	23	42%	29	53%	3	5%	0	0%	0	0%	55	4.36
	H20	2	33%	4	67%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.33
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	51	37%	73	53%	11	8%	2	1%	0	0%	137	4.26
書面調査のシミュレーションは役立った (H21年度より、「自己評価書のサンプルの提示は役立った」)	H17	4	14%	18	62%	4	14%	3	10%	0	0%	29	3.79
	H18	10	24%	17	41%	10	24%	4	10%	0	0%	41	3.80
	H19	16	29%	24	44%	14	25%	1	2%	0	0%	55	4.00
	H20	3	50%	0	0%	3	50%	0	0%	0	0%	6	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	合計	35	26%	62	45%	32	23%	8	6%	0	0%	137	3.91
研修に費やした時間の長さは適切であった	H17	2	7%	13	45%	11	38%	3	10%	0	0%	29	3.48
	H18	5	12%	19	46%	14	34%	3	7%	0	0%	41	3.63
	H19	10	18%	27	49%	14	25%	4	7%	0	0%	55	3.78
	H20	2	33%	2	33%	2	33%	0	0%	0	0%	6	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	17%	4	67%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.00
	合計	20	15%	65	47%	42	31%	10	7%	0	0%	137	3.69

【④評価の作業量、スケジュール等】

5:とても大きい(とても長い)～3:適当～1:とても小さい(とても短い)

		5		4		3		2		1		合計	平均
自己評価書の書面調査(作業量)	H17	13	43%	14	47%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.33
	H18	16	37%	20	47%	7	16%	0	0%	0	0%	43	4.21
	H19	32	57%	19	34%	5	9%	0	0%	0	0%	56	4.48
	H20	5	50%	1	10%	3	30%	1	10%	0	0%	10	4.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	4	57%	1	14%	1	14%	0	0%	7	3.71
	合計	67	46%	58	40%	19	13%	2	1%	0	0%	146	4.30

自己評価書の書面調査(作業期間)	H17	9	30%	6	20%	6	20%	7	23%	2	7%	30	3.43
	H18	10	23%	8	19%	13	30%	10	23%	2	5%	43	3.33
	H19	13	23%	9	16%	15	27%	15	27%	4	7%	56	3.21
	H20	2	20%	1	10%	5	50%	2	20%	0	0%	10	3.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	43%	4	57%	0	0%	0	0%	7	3.43
	合計	34	23%	27	18%	43	29%	34	23%	8	5%	146	3.31

訪問調査への参加(作業量)	H17	2	7%	11	37%	16	53%	1	3%	0	0%	30	3.47
	H18	4	9%	11	26%	28	65%	0	0%	0	0%	43	3.44
	H19	1	2%	16	28%	39	68%	1	2%	0	0%	57	3.30
	H20	2	22%	2	22%	5	56%	0	0%	0	0%	9	3.67
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	33%	4	67%	0	0%	0	0%	6	3.33
	合計	9	6%	42	29%	92	63%	2	1%	0	0%	145	3.40

訪問調査への参加(作業期間)	H17	2	7%	5	17%	21	70%	2	7%	0	0%	30	3.23
	H18	3	7%	8	19%	32	74%	0	0%	0	0%	43	3.33
	H19	4	7%	10	18%	43	75%	0	0%	0	0%	57	3.32
	H20	1	11%	0	0%	6	67%	2	22%	0	0%	9	3.00
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	5	83%	1	17%	0	0%	6	2.83
	合計	10	7%	23	16%	107	74%	5	3%	0	0%	145	3.26

評価結果の作成(作業量)	H17	1	4%	4	14%	20	71%	2	7%	1	4%	28	3.07
	H18	2	5%	8	19%	31	72%	2	5%	0	0%	43	3.23
	H19	0	0%	8	14%	44	79%	3	5%	1	2%	56	3.05
	H20	2	20%	1	10%	5	50%	2	20%	0	0%	10	3.30
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	43%	3	43%	1	14%	0	0%	7	3.29
	合計	5	3%	24	17%	103	72%	10	7%	2	1%	144	3.14

評価結果の作成(作業期間)	H17	1	4%	2	7%	22	79%	2	7%	1	4%	28	3.00
	H18	3	7%	5	12%	33	77%	2	5%	0	0%	43	3.21
	H19	1	2%	4	7%	47	84%	3	5%	1	2%	56	3.02
	H20	1	10%	1	10%	7	70%	1	10%	0	0%	10	3.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	29%	4	57%	1	14%	0	0%	7	3.14
	合計	6	4%	14	10%	113	78%	9	6%	2	1%	144	3.09

5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の質保証という目的に見合うものであった	H17	8	28%	15	52%	4	14%	2	7%	0	0%	29	4.00
	H18	9	21%	24	56%	10	23%	0	0%	0	0%	43	3.98
	H19	8	14%	38	66%	11	19%	1	2%	0	0%	58	3.91
	H20	5	56%	3	33%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.44
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	5	71%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.00
	合計	31	21%	85	58%	27	18%	3	2%	0	0%	146	3.99

評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	H17	8	28%	14	48%	5	17%	2	7%	0	0%	29	3.97
	H18	11	26%	22	51%	9	21%	1	2%	0	0%	43	4.00
	H19	6	10%	36	62%	15	26%	1	2%	0	0%	58	3.81
	H20	2	22%	6	67%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.11
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	5	71%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.00
	合計	28	19%	83	57%	31	21%	4	3%	0	0%	146	3.92

評価作業に費やした労力は教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	H17	7	24%	13	45%	7	24%	2	7%	0	0%	29	3.86
	H18	8	19%	21	49%	12	28%	2	5%	0	0%	43	3.81
	H19	10	17%	29	50%	19	33%	0	0%	0	0%	58	3.84
	H20	3	33%	5	56%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.22
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	4	57%	1	14%	1	14%	0	0%	7	3.71
	合計	29	20%	72	49%	40	27%	5	3%	0	0%	146	3.86

【⑤評価部会等の運営】

5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	H17	8	27%	19	63%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.17
	H18	12	28%	29	67%	2	5%	0	0%	0	0%	43	4.23
	H19	22	38%	28	48%	6	10%	2	3%	0	0%	58	4.21
	H20	5	56%	3	33%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.44
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	5	71%	2	29%	0	0%	0	0%	7	3.71
	合計	47	32%	84	57%	14	10%	2	1%	0	0%	147	4.20
部会運営は円滑であった	H17	13	43%	16	53%	1	3%	0	0%	0	0%	30	4.40
	H18	23	53%	20	47%	0	0%	0	0%	0	0%	43	4.53
	H19	31	53%	26	45%	1	2%	0	0%	0	0%	58	4.52
	H20	6	67%	3	33%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.67
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	6	86%	1	14%	0	0%	0	0%	7	3.86
	合計	73	50%	71	48%	3	2%	0	0%	0	0%	147	4.48

【⑥評価全般】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5		4		3		2		1		合計	平均
本評価によって教育研究活動等の質が保証されると思う	H17	4	13%	21	70%	5	17%	0	0%	0	0%	30	3.97
	H18	6	14%	26	60%	10	23%	1	2%	0	0%	43	3.86
	H19	8	14%	45	78%	5	9%	0	0%	0	0%	58	4.05
	H20	4	44%	4	44%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.33
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	29%	4	57%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.14
	合計	24	16%	100	68%	22	15%	1	1%	0	0%	147	4.00
本評価によって教育研究活動等の改善が促進されると思う	H17	9	30%	18	60%	3	10%	0	0%	0	0%	30	4.20
	H18	14	33%	18	42%	9	21%	2	5%	0	0%	43	4.02
	H19	9	16%	44	76%	5	9%	0	0%	0	0%	58	4.07
	H20	4	44%	4	44%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.33
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	5	71%	1	14%	0	0%	0	0%	7	4.00
	合計	37	25%	89	61%	19	13%	2	1%	0	0%	147	4.10
本評価によって教育研究活動等の社会の理解と支持が支援促進されると思う	H17	5	17%	18	60%	6	20%	1	3%	0	0%	30	3.90
	H18	4	9%	20	47%	16	37%	2	5%	1	2%	43	3.56
	H19	9	16%	29	50%	20	34%	0	0%	0	0%	58	3.81
	H20	2	22%	6	67%	1	11%	0	0%	0	0%	9	4.11
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	4	57%	2	29%	1	14%	0	0%	7	3.43
	合計	20	14%	77	52%	45	31%	4	3%	1	1%	147	3.76
自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	H17	6	20%	15	50%	8	27%	1	3%	0	0%	30	3.87
	H18	7	16%	21	49%	13	30%	2	5%	0	0%	43	3.77
	H19	10	17%	31	53%	15	26%	2	3%	0	0%	58	3.84
	H20	3	33%	4	44%	2	22%	0	0%	0	0%	9	4.11
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	14%	4	57%	2	29%	0	0%	0	0%	7	3.86
	合計	27	18%	75	51%	40	27%	5	3%	0	0%	147	3.84
今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	H17	6	20%	20	67%	3	10%	1	3%	0	0%	30	4.03
	H18	12	29%	16	38%	12	29%	2	5%	0	0%	42	3.90
	H19	16	29%	24	43%	11	20%	4	7%	1	2%	56	3.89
	H20	4	44%	4	44%	0	0%	1	11%	0	0%	9	4.22
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	43%	3	43%	1	14%	0	0%	7	3.29
	合計	38	26%	67	47%	29	20%	9	6%	1	1%	144	3.92
総じて機構の認証評価を経験できてよかった	H17	22	73%	8	27%	0	0%	0	0%	0	0%	30	4.73
	H18	24	56%	15	35%	4	9%	0	0%	0	0%	43	4.47
	H19	41	71%	14	24%	3	5%	0	0%	0	0%	58	4.66
	H20	6	67%	3	33%	0	0%	0	0%	0	0%	9	4.67
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	2	29%	5	71%	0	0%	0	0%	0	0%	7	4.29
	合計	95	65%	45	31%	7	5%	0	0%	0	0%	147	4.60

選択的評価事項に係る評価検証結果経年分析【評価担当者】

【H18から新設】5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった	H17												
	H18	6	19%	16	50%	9	28%	1	3%	0	0%	31	3.84
	H19	15	48%	11	35%	5	16%	0	0%	0	0%	31	4.32
	H20	4	67%	1	17%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	25	35%	31	43%	15	21%	1	1%	0	0%	72	4.11	
【選択A】「研究活動の状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	H17												
	H18	9	29%	15	48%	5	16%	2	6%	0	0%	31	4.00
	H19	11	38%	12	41%	4	14%	2	7%	0	0%	29	4.10
	H20	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	33%	2	67%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.33
合計	24	35%	32	46%	9	13%	4	6%	0	0%	69	4.10	
【選択B】「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	H17												
	H18	9	30%	14	47%	6	20%	1	3%	0	0%	30	4.03
	H19	10	34%	14	48%	3	10%	2	7%	0	0%	29	4.10
	H20	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	33%	1	33%	1	33%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	23	34%	32	47%	10	15%	3	4%	0	0%	68	4.10	
【選択A】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	H17												
	H18	7	23%	13	42%	11	35%	0	0%	0	0%	31	3.87
	H19	5	17%	17	59%	7	24%	0	0%	0	0%	29	3.93
	H20	3	50%	2	33%	0	0%	1	17%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	0	0%	3	3.67
合計	15	22%	34	49%	19	28%	1	1%	0	0%	69	3.91	
【選択B】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	H17												
	H18	7	23%	11	37%	10	33%	2	7%	0	0%	30	3.77
	H19	4	14%	20	69%	5	17%	0	0%	0	0%	29	3.97
	H20	3	50%	1	17%	2	33%	0	0%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	0	0%	3	3.67
合計	14	21%	34	50%	18	26%	2	3%	0	0%	68	3.88	
【選択A】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	H17												
	H18	5	16%	16	52%	10	32%	0	0%	0	0%	31	3.84
	H19	4	14%	20	69%	5	17%	0	0%	0	0%	29	3.97
	H20	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	11	16%	42	61%	16	23%	0	0%	0	0%	69	3.93	
【選択B】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	H17												
	H18	6	20%	16	53%	8	27%	0	0%	0	0%	30	3.93
	H19	5	17%	19	66%	4	14%	1	3%	0	0%	29	3.97
	H20	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	6	4.17
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	0	0%	3	3.67
合計	13	19%	40	59%	14	21%	1	1%	0	0%	68	3.96	
対象校の自己評価書は理解しやすかった	H17												
	H18	2	6%	15	47%	14	44%	1	3%	0	0%	32	3.56
	H19	2	6%	20	65%	8	26%	1	3%	0	0%	31	3.74
	H20	1	20%	2	40%	2	40%	0	0%	0	0%	5	3.80
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	1	33%	1	33%	1	33%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	6	8%	38	54%	25	35%	2	3%	0	0%	71	3.68	

【H18から新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均					
【選択A】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	H17												
	H18	3	10%	18	58%	10	32%	0	0%	0	0%	31	3.77
	H19	2	7%	19	66%	8	28%	0	0%	0	0%	29	3.79
	H20	1	17%	3	50%	2	33%	0	0%	0	0%	6	3.83
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	6	9%	43	62%	20	29%	0	0%	0	0%	69	3.80	
【選択B】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	H17												
	H18	3	10%	17	57%	10	33%	0	0%	0	0%	30	3.77
	H19	3	10%	20	69%	6	21%	0	0%	0	0%	29	3.90
	H20	1	20%	2	40%	1	20%	1	20%	0	0%	5	3.60
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	0	0%	3	3.67
合計	7	10%	41	61%	18	27%	1	1%	0	0%	67	3.81	
【選択A】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	H17												
	H18	4	13%	18	58%	9	29%	0	0%	0	0%	31	3.84
	H19	7	24%	15	52%	7	24%	0	0%	0	0%	29	4.00
	H20	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	14	20%	39	57%	16	23%	0	0%	0	0%	69	3.97	
【選択B】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	H17												
	H18	4	13%	17	57%	9	30%	0	0%	0	0%	30	3.83
	H19	6	21%	14	48%	9	31%	0	0%	0	0%	29	3.90
	H20	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6	4.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	13	19%	37	54%	18	26%	0	0%	0	0%	68	3.93	
【選択A】 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	H17												
	H18	0	0%	6	20%	19	63%	3	10%	2	7%	30	2.97
	H19	0	0%	4	14%	21	72%	4	14%	0	0%	29	3.00
	H20	0	0%	0	0%	4	67%	1	17%	1	17%	6	2.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3	3.00
合計	0	0%	10	15%	47	69%	8	12%	3	4%	68	2.94	
【選択B】 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	H17												
	H18	0	0%	7	24%	17	59%	3	10%	2	7%	29	3.00
	H19	0	0%	3	10%	20	69%	6	21%	0	0%	29	2.90
	H20	0	0%	1	17%	3	50%	0	0%	2	33%	6	2.50
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	3	3.00
合計	0	0%	11	16%	43	64%	9	13%	4	6%	67	2.91	
「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	H17												
	H18	7	22%	19	59%	6	19%	0	0%	0	0%	32	4.03
	H19	7	23%	17	57%	6	20%	0	0%	0	0%	30	4.03
	H20	1	20%	1	20%	3	60%	0	0%	0	0%	5	3.60
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	15	21%	40	57%	15	21%	0	0%	0	0%	70	4.00	
自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	H17												
	H18	7	22%	18	56%	7	22%	0	0%	0	0%	32	4.00
	H19	6	20%	20	67%	4	13%	0	0%	0	0%	30	4.07
	H20	2	40%	2	40%	1	20%	0	0%	0	0%	5	4.20
	H21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H22	0	0%	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3	4.00
合計	15	21%	43	61%	12	17%	0	0%	0	0%	70	4.04	

参考資料 2

—対象校及び評価担当者からの自由記述による意見等のまとめ—

ここでは、全体に関係する意見、感想等、評価の方法、実施体制に関わる意見、感想等及び各基準に関わる意見、感想等に分類して記載した。また、第2サイクルの認証評価の基準、観点等を見直す際にそれらの意見に対してどのように対応したかについても以下の記号によって分類して示している。

- ：重要な意見として第2サイクルの評価基準、観点の見直しに反映させたもの。
- ：既に現行の基準、観点で対応できていると考えられるため、基準、観点の見直しではなく、自己評価実施要項、評価担当者への手引、分析に当たっての留意点等の改正と説明会、研修会等での説明を充実させることで対応したもの。
- *：基準、観点の見直しではなく、評価実施方法の改善等により対応することができるもの。
- ・：貴重な意見として、拝聴し、必要に応じて今後活かすもの。

全体に関連した意見、感想等

- このような評価で個性の伸長が図れるかは疑問。
- あまりに機構の基準による自己評価に縛られると個性がなくなる。
- 個々の基準、観点と関連する事項が多く、違ったところで同じ事柄が上がっていた。学校の目的といっても、教育上、学習上のものか、生活指導上のものまでを意味しているか明確でない。回答する対象校も同じことをいろいろなところに書いていたので、基準をもう少し明確にできないか。
- 要求水準が高すぎ。
- 観点の文章はもっと平易に。
- 基準、観点をQ&Aを参考にもっと明確かつ詳しく記載すべき。
- 観点や基準の文言だけでは、具体的に記述すべき内容が特定できない。留意点の内容を基準、観点到含めていただきたい。
- システムとして機能しているかという表現はわかりにくい。
- 外部評価、J A B E E の評価がある中で、観点が多すぎる。
- 全体として、項目が多すぎ、かなり小さな差をあえて大きく見ている感がある。もう少し項目を少なくする。
- 観点の区別が明確ではない。違う観点でも同じ記述となりがち。
- 基準、観点を深く考えると同じところに行き着き切り分けるのが困難であった。
- 同じ資料を用いて記述せざるを得ない観点はまとめよ。
- 何をどこまで記述すべきか判断に困った観点が多く、何をどこまで出すのかがわかるよう提出する資料の様式を明確に指示してほしい。

- 整備され機能しているかというのは、高専には厳しい。整備され活用されているか程度で良いのでは。
- 学校が評価してほしい部分の基準を前もって申請させてほしい。
- 評価の段階（レベル）が抽象的かつ感覚的なので、多くの観点が「水準である」となってしまう。どうなったら最高レベルなのか、レベルアップするにはどうしたら良いのかのイメージが掴みにくい。また、観点が非常に細かい、もう少しおおざっぱで良いのではないか。このことは、評価の段階とリンクするとはっきりする。
- 組織と責任・権限との関係の明確化と基準との関係がわかりにくい。また、基準を満たすためのプロセスを問うていない。しかし、各対象校の特徴などを重視するようになると、関係をクリアにしていくことが求められる。
- どこまで踏み込んで評価するかが、各対象校と機構で差があった。ごく一部でも対応していれば良いとするのではなく、学校全体としての実態を評価できなければ、評価のための評価となってしまう。
- 基準には重複が多少ある。
- 観点の中にはあまりにも詳細な記述を求めるものがある。
- *現在の評価は教育的指導のようであるが、もう少しメリハリを付けた厳しい評価とすべき。第2サイクルではそうなるのか。
 - ・認証評価が「誰のため、何のための評価であるか」理解できると、評価基準及び観点が、それぞれ有機的に関連し合っていることが理解でき、読み方と解釈を誤ってはならないことがよくわかった。
 - ・本評価の中心が「学校の使命、基本理念」に照らしたものであると理解でき、そのような評価ができた。
 - ・教育はかなり広範囲かつ多様な事柄故、その目的はある程度、抽象的にならざるを得ない。そのため、観点によってどこまで取り上げるべきか対象校は判断が難しい。評価者も、別の基準に取り上げられているから良いとしたりしている。自主的にとか、自ら問題を発見し、自主、自立といった事柄は、あるものは狭い意味の教育、授業に、あるものは人間形成上のものもあり、どこか1点ではない。授業の内容にしても教育活動、その連携、評価など、いろいろな側面を持つので、対象校としても整理がしにくかったのではないか。
 - ・負担は非常に大きかったが、質の保証、社会への説明責任のためにはある程度必要。
 - ・個性の伸長のためには、高専教育の画一化の動向を見定めつつ、評価基準、評価項目の簡素化、大綱化を図るべきである。
 - ・学校長、事務職員の評価も必要。
 - ・教員の研究活動に対する評価を拡充する。
 - ・将来の教育に対するビジョンである企画や構想力の検討状況を評価する観点があるべき。

- ・評価基準が改善の目的に適切かどうかというよりも、評価基準に適合するように改善活動を進めた。
- ・自己主張になれていないために、自分たちでは当たり前で強調する必要がないと考えている点を評価されたが、自己評価書に記載することにためらいがあった。
- ・J A B E E 基準との整合性をとるのに苦労した。
- ・基準、観点の文言については区別出来ても実際に自己評価書を作成する上では多様な内容を記述したケースがあり、学校全体では一つのシステムをどのような切り口で分析すべきかが難しく感じた。積極的なアピールとして実際の取組を記述するのか、それとも見やすさや字数制限を考慮して主要もしくは特徴的な点に絞るべきか戸惑った。
- ・社会は、基準、観点とは別の視点から高専を評価している。
- ・教育の成果は数字に現れるものだけが評価されがちになる。
- ・どうしても、認証評価は広く浅くなりがち、一方、J A B E E は狭く深くなりがち。
- ・高専の教員がオーバーワークになっていることが、明らかとなる評価を。
- ・高専の教員が忙しすぎることを社会に訴えられる評価に。
- ・人手が足りないのに良い教育をしているということを社会に訴えられる評価に。
- ・マスメディアの報道は、改善点が少ない高専が良い高専であるという印象を与えた。
- ・マスメディアの報道は、改善なしが高評価との報道。
- ・マスコミの報道は、改善勧告の数ばかり強調され、プラス面が報じられなかった。
- ・高専には社会の理解を得るまでの歴史がない。

評価方法、実施体制について

- 基準1の評価に現状の追認がある。
- 添付資料の区分の具体的な説明がほしかった。当校では、本文挿入資料、添付資料、別冊資料、訪問調査時閲覧資料に分類した。
- どのような資料をどの程度添付するかについて、迷った。
- 文字数制限は、取組が多い対象校ほど記述を困難にしている。
- 文字数制限で苦労した。
- 文字数制限は、結構きつかった。
- 文字数は基準によって差がありすぎる。
- 自己評価の手引が難し過ぎた。
- 認証のための自己評価が自己点検・評価と見なされないのはいかがか。
- 「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」をもっと具体的に現実的に議論する必要あり。
- *教育の達成度とのかかわりにおいて「・・・どうか」という問いは、書き方に評価が依存して、書き方のスキルに走らせる危険がある。評価後に実態として改善に向けての努力を促す評価となるような工夫が必要。

- *改善に資することが出来るような、高専の実態が評価できるように。
- *水準が適切かは評価が難しい。
- *整備され、機能しているかと二つの視点を聞いている観点は評価が曖昧になる。
- *適切性の基準が難しい。
- *評価報告書は当校の全体像を反映するものとなっていない。
- *総合的に見て良い学校かどうか分かる評価とすべき。
- *独自の取組が評価されなかった。
- *結果として、良い点や個性よりも、不備な点がクローズアップされた。
- *細かい点を形式的に評価された感じがする。
- *個性の伸長に資する評価を求める。
- *もっと厳しい評価をしてほしい。
- *質を保証するほど、十分な評価をされたとは思えない。
- *訪問調査時に比較し、最終評価結果報告書には改善事項の指摘が少なかった。多い方が管理する立場としてはやりやすい。
- *自己評価、訪問調査の準備に費やした労力は膨大である。
- *最小限の労力で最大限の効果の得られる評価にしてほしい。
- *説明会は、全高専が参加するものとは別に、その年度に受審する高専のみを対象とするものも開催してほしい。(あまり参加校が多いと十分質問ができない。)
- *説明会での資料添付の仕方と実際に求められた内容・レベルにはかなりの差があった。(説明会では必要最小限といわれたが、実際にはかなり詳細な資料を求められた。)
- *自己評価担当者研修会では、実務的な問題に対する質疑応答を充実せよ。
- *訪問調査の確認事項はもう少し早く提示してほしい。
- *訪問調査にもう少し時間をとってほしい。優れた点を理解してもらうのに必要。
- *訪問調査の時間が短く十分理解してもらうことが出来なかった。
- *評価報告書の優れた点は、一般の人にも理解できる程度に詳しくすべき。
- *全体的にもう少し高専の現場を理解した評価にすべき、時間の流れについても配慮し、スポット的な評価は避ける。
- *適切、適当という評価が難しい。
- *工夫の評価が難しい。
- *各観点に対する判断の基準を研修で十分シミュレーションする時間がほしい。
- *学生のニーズへの対応は、取組に対して学生が利用しなくとも対応が出来ているとして良い。
- *意見の申し立てに対しての回答では形式的な理由のみで実質的な判断をしていない。
- *評価結果への意見の申し立てについては、もう少し、柔軟な対応が必要である。
 - ・簡素化が必要
 - ・高専が大学と比較して優れている点をもっと評価していただきたい。

- ・この認証評価の対応のために、教育力が下がった。

基準ごとの意見、感想等

基準 1 関係：

- 目的はもっと学校の特色を意識したものに。
- 1-1-②は問う意味があるのか。
- 観点1-1-① 目的として、使命、基本方針、基本的な成果と問う内容があまりにも漠然としている。
- 基準1の目的の中に選択的評価事項の目的も記載させよ。
- *観点1-2-①の周知の程度は評価しにくい。
- ・学校全体の目的と学科の目的との整合性をとるのが難しかった。

基準 2 関係：

- 基準2 2-1-①等は文部科学省が設置基準に基づいて評価しているのだから、さらに評価をする必要があるのか。
- 観点2-1-①は国立高専の場合評価しにくい。
- 基準2-1は記述するだけでよいのではないか。
- 観点2-1-①は自己評価の記載が難しい。
- 基準2の観点2-1-①：意図はわかるが自己評価しにくい。
- 情報処理センターが基準2-1、7-1、8-1に出てくる。センターの整備としてまとめられないか。
- 観点2-2-①と1-1-①、2-2-①と1-1-②に重複がある。
- 観点2-2-①は基準1-1-1に含めても良い
- 基準2の観点2-2-②連携が機能的におこなわれているかは評価しにくい。
- 基準2の観点2-2-③支援体制の意味が広すぎる。
- 観点2-2-③の意味がわかりにくい。
- 観点2-2-③：「教育活動を円滑に」の意味・意図が不明。
- 観点2-2-③では、高専の教育活動には、教育課程のほかに課外活動もあるので設問を細分化してほしい。

基準 3 関係：

- 観点3-2-②は、教員の採用・昇格に限ったものであるはず。
- 観点3-1-①と②は、設置基準が満たされていれば良い。
- 基準3と基準9は重複している。
- 基準3と基準9は区別が付きにくい。
- 基準3の観点3-1-①、②、観点3-2-②、3-3-①は評価しにくい。

- 基準3の観点3-1-①、②：教員の適切な配置、観点3-2-①、②：教育上の能力、非常勤職員については評価しにくい。
- 基準3の観点3-1-④均衡ある年齢構成は評価しにくい。

基準4関係：

- 基準4 APについては、あまりにも大学を意識しすぎている。中学卒業生を対象としている高専としてはもっと単純なものでよいはず。むしろ、受け入れた後の転科、転出のし易さといったケアが大事ではないか。
- 観点4-2-①と②は自己評価の記載が難しい。
- 基準4の観点4-2-①、②は評価しにくい。
- 基準4の観点4-2-①APに沿った学生の受入は評価しにくい。
- 観点4-2-①と②は現実とのギャップがあり、評価しにくい。
- 基準4の観点4-2-①と②：国立高専は同一問題で選抜を行っているので、当該観点についての分析・評価が二次的あるいは付加的となる。
- * AP、実入学者などの評価は現状の評価方法では問題がある。
 - ・観点4-2-①は実施が難しい。

基準5関係：

- 安全、安全教育の基準、観点が必要。
- 教育の達成度とのかかわりにおいて「・・・どうか」という問いは、書き方に評価が依存して、書き方のスキルに走らせる危険がある。評価後に実態として改善に向けての努力を促す評価となるような工夫が必要。
- 改善に資することが出来るような、高専の実態が評価できるように。
- 創造性を育む教育方法の工夫の例示にPBLを入れるのは問題。
- 観点5-2-③、5-6-②の創造性を育む教育方法の工夫のPBLは疑問。
- 観点5-2-③、5-6-② 観点の中に含まれているインターンシップは独立させよ。
- 基準5 人間の素養の涵養より、人間性の育み、人間力の育成の方が適切
- 観点5-4-①、②は、人間の素養の涵養として一つにまとめる。
- 基準5の観点5-4-①、②は評価しにくい。
- 基準5は内容が多岐にわたっているので、細分化すべき。
- 基準5では、内容と方法を明確には区別出来ないので観点間で記述が重複してしまう。
- 基準5に学習単位の基準を追加すべきである。
- 観点5-1-①、5-5-②では、設置基準に謳われている学習時間のチェックも必要では。
- 観点5-1-①の体系性については、各高専の自己評価書の文章表現に依存する。

- 観点5-2-①のバランスは評価が難しい。
- 目的に照らした適切性やバランスの判断。
- 観点5-2-①、5-6-①のバランスは評価がむずかしい。
- 観点5-2-①、5-6-① 学習指導方法の工夫、9-1-⑤ 教育改善、9-2-② FDによる教員の資質の向上、授業改善は一つにならないか。
- 観点5-2-③創造性を育む教育方法の工夫は評価しにくい。
- 基準5の5-2-③：創造性を育む教育方法の工夫は分析・評価しにくい。
- 創造性を育む教育方法の工夫は評価が難しい。
- 基準に明示されていないことをどこまで学校に要求できるのか。例えばシラバスの記載内容について。
- 観点5-4-①と②の人間の素養は評価が難しい。
- 人間の素養の涵養はエビデンスを出しにくい。
- *どこまで踏み込んで評価するかが、各対象校と機構で差があった。ごく一部でも対応していれば良いとするのではなく、学校全体としての実態を評価できなければ、評価のための評価となってしまう。
- *観点5-3-①成績評価や単位の認定が適切に行われているか。訪問調査時の資料から短時間で評価するのは難しい。もう少し短時間でも判定しやすい資料の提示が求められないか。
- *インターンシップ、PBLなどの評価は現状の評価方法では問題がある。
- *成績評価資料の評価は、訪問調査時の短時間の評価では難しい。
 - ・学校の教育理念や目標に対応する具体的なカリキュラムを決定するのに多大な時間をとられた。
 - ・基準5の準学士課程と専攻科課程をまとめる。
 - ・基準5 学士課程と専攻科課程を分ける必要なし。
 - ・専攻科課程は準学士課程と別の番号立てとして、独立せよ。

基準6 関係：

- 教育の成果の把握の仕方が難しい。
- 観点6-1-①は評価しにくい。
- 学生に達成度を尋ねる項目は不適切。満足度なら良い。
- 基準6の観点6-1-①、②：目的に沿った形での教育の成果の把握・評価方法は評価しにくい。
- 基準6の観点6-1-①：学力ならともかく、資質、人材像の達成状況の把握は評価しにくい。
- 観点6-1-②教育の成果と観点⑨-①-③学外関係者の意見は重複がある。
- 観点6-1-④学生による達成度評価は評価が難しい。

○基準6の観点6-1-⑤と基準9の観点9-1-③は類似点が多い。学外者からの意見収集が複雑になる。

*基準6-1教育の成果について、書面でわからない部分を訪問調査で調べるが、現在の滞在時間では、氷山の一角しか見えない。

基準7関係：

- 安全面、環境面を聞く観点があって良い。
- 基準7と基準8は重複がある。
- 観点7-1-②自主学习環境と観点8-1-①の施設・設備には重複がある。
- 学習指導ばかりではなく、生活指導の面の評価が必要。
- 観点7-1-②、7-2-③と基準8に重複がある。
- バリアフリーに関して、観点7-2-②と8-1-①に重複がある。
- 観点7-2-③の学生寮は基準8-1の施設・設備に入れても良い。
- 生活指導の面の評価が少ない。

基準8関係：

- 安全、安全教育の基準、観点が必要。
- 安全面、環境面を聞く観点があって良い。
- 省エネルギー観点も必要か。
- 基準8 バリアフリーの評価をどこまでするのか。
- ゆとりの空間の設備状況の設問もほしい。
- 基準8の観点8-1-②は評価しにくい。

基準9関係：

- 観点9-1-⑤、9-2-②は重複がある。
- 基準9 観点9-2-①、②を解体し、前者は9-1に含め、後者は基準11に移しSDの中に含める。
- 基準9-1の自己点検評価については各高専に任されているが、各高専の独自の方法等については明示してもらうように。
- 観点9-1-③の学外関係者には、外部有識者も加えて良い。
- 基準9の観点9-2-②：FDが必ずしも改善と結び付かない場合もある。
- 基準9の観点9-1-③、④は評価しにくい。
- 観点9-1-④、9-1-⑤、9-2-②は評価しにくい。
- 基準9の学生の満足度評価は評価しにくい。
- 観点9-1-④と11-3-②：評価を受けた改善の実施は重複する。
- 観点9-1-⑤と9-2-②は教育改善として一つにする。

- 観点9-1-⑤と9-2-②は重複している。
- 改善システムが機能しているか。システムとなっているかは評価が難しい。

基準10関係：

- 基準10 適切な資源配分については評価が難しい。
- 国立高専に対しては、基準10の財務は不要。
- *観点10-2-①と③は全ての高専が判断保留となっていることから、記述方法、資料添付のポイントを解説すべき。
 - ・基準10では、資料の統一基準を作るべき。
 - ・基準10の財務は国立高専の場合は簡単にできるように。
 - ・財務の観点10-1-①、10-2-②、10-3-①、②は国立高専では、ほとんど問題とならないので、簡素化すべき。

基準11関係：

- 危機管理の観点も必要。
- 観点11-3-②と観点9-1-④：評価を受けた改善の実施は重複する。
- 基準11では、管理運営の組織図を求めよ。
- 基準11 基準、観点の中に、指令、命令系統との関連を明確にする文言が必要。従って、目的に沿った評価となっていない。
 - ・コンプライアンスの観点も必要か。

選択的評価事項関係：

- 選択的評価事項Aの観点A-1-②の評価が財務の評価と同じとなり、重複している。
 - ・選択的評価は認証評価の中へ入れるべき
 - ・選択的評価事項は認証評価基準に含めるべきである。
 - ・選択的評価事項は必要性が感じられない。
 - ・選択的評価事項は削除してほしい。
 - ・選択的評価事項の評価結果は社会に誤解を与える危惧がある。
 - ・選択的評価事項は、各高専が最も得意とする事項で評価してほしい。

